

関西医科大学 広報

看護学部棟完成予想図（枚方キャンパス）



ホスピタルガーデン完成予想図
（総合医療センター）

看護学部棟エントランス完成予想図（枚方キャンパス）



武道館完成予想図（牧野校地）



創立90周年記念事業、始動。

Vol.37

CONTENTS

法人： 平成29年度医学部入学式	P.1～
法人： 平成29年度入職式	P.12
創立90周年記念ロゴ策定、 フォトコンテスト開催	P.14

大学： 産学官協創フォーラム開催	P.25
病院： アレルギーセンター開設	P.26
看護専門学校： 卒業式、入学式	P.28

平成29年度医学部入学式



平成29年度新入生117名と入学式出席者

4月5日(水)午後1時30分から枚方学舎加多乃講堂において「平成29年度医学部入学式」が行われました。本年度は117名の新入生が医学の道の第一歩を踏み出しました。

告辞に立った友田幸一学長からは「大学に入ることにはゴールではなく、スタートラインについたに過ぎない。初心を決して忘れず、医師になるモチベーションを保ち続けて、良医を目指して勉学に励んでほしい」と、歓迎と激励の言葉が贈られました。

入学式告辞

学長 友田 幸一

桜花爛漫の季節を迎え、新入生の皆さんご入学おめでとうございます。本日117名の皆さんを迎えて、平成29年度の入学式を挙行できますことは、私たち関西医科大学の教職員にとりまして、誠に大きな喜びであります。またご臨席をいただきましたご来賓各位に厚くお礼を申し上げます。

皆さんは3,663名の受験生の中から競争率約30倍という難関を見事に突破しての合格であり、ご本人の努力と、皆さんの勉強と生活を支えてこられたご家族や関係の皆様には心からお祝いを申し上げます。

さて、皆さんは本日の入学式を迎えて、喜びとともに、

これから始まるキャンパスライフに大きな期待を抱いておられることでしょう。そこで皆さんの母校となる関西医科大学とはどういう大学かについてまずお話しします。

本学は昭和3年(1928年)に枚方市の牧野の地で、大阪女子高等医学専門学校として創設され、その後大阪女子医科大学と改名し、そして26年後の昭和29年(1954年)に男女共学制を採用して校名を関西医科大学と改めました。今年で創立89周年を迎え、卒業生総数は8,136名からなる歴史と伝統のある大学です。

その長い歴史の中で、近年、大きく変革を遂げました。その一つは、今、皆さんがおられるこの学舎は、4年前



にオープンし、延床面積4万2千平米という甲子園球場が二つ入る大きさです。「グリーン&エコ」をモットーとし、正門をくぐられた目の前に広がる広い中庭が目に入ったことと思います。校舎の周辺には桜、梅、そしてバラ園などもあります。これまで3つに分かれていた学舎をここ一つに統合し、「全学年が学ぶキャンパス」、「最新の研究施設」、「最先端医療を担う附属病院(本院)」が隣あわせに立地し、スカイウェイで直結するまさに超近代的な学園に生まれ変わりました。

新学舎の4階までは、講義室、実習室、講堂、図書館など、主に学生の教育施設が、5階以上は臨床と基礎の全講座の研究室及び居室が、そして中層階は、近代的な動物センター、総合研究施設など中央研究部門が配置されています。近い将来は最先端の医学研究所の設立が計画されています。恐らくこれらの諸施設は現在の日本の医科大学の中でも有数の教育研究施設ではないかと思えます。

一方、医科大学にとり附属病院は医学教育の原点であり、患者から学ぶ場となります。本学には附属の3病院があります。この学舎に隣接する附属病院は本院で、10年前に開院し、最新、最強の診療機能を持つ751床の基幹病院です。大阪府下でトップにランキングされた病院で、医療の質はもとより、経営能力においても高い評価を得て、全国的にもリーディングホスピタルの1つです。最新の診療機器を備え、一流の腕を持つ診療教授が数多くおられ、さらに、がんセンター、小児医療センター、腎センター、臨床遺伝センター、そしてこの春から全国でも数少ないアレルギーセンターを開設するなど、今後の疾病の動向、変化に対応した最新の医療が提供できる病院です。

総合医療センターは、大阪市に隣接する守口市の滝井に位置し、病床数477床の地域中核型の病院で、昨年5月にオープンした超近代的な病院です。急性期に対応した診療の他、心臓血管病センター、透析センターなどに加え、人工関節センターを新設し、高名な特命教授、診療教授などのスタッフを揃え、診療機能の大幅な強化を行っています。

香里病院は、病床数199床で6年前に開院した新しい地域密着型の病院で、新たに訪問看護ステーションを設置し、より地域に根差した診療を展開しています。これ

ら3つの病院の総病床数は1,427床になり、さらに人間ドックなど予防医療を担う天満橋総合クリニックを合わせ持つ本学の総合的な診療機能は、京阪沿線にそって展開されていて、「健康沿線[®]」というキャッチフレーズで西日本一、かつ日本でも有数のものと考えています。これらの施設が皆さんの臨床医学教育の、そして将来の医師としての活躍の場になります。さらに来年は、創立90周年を迎えるにあたり待望の4年制の看護学部・大学院が新設され、医学・看護の全般にわたって最強の大学に変身します。また牧野の地に武道館を備えた講堂、元滝井病院跡に公式のサッカー場の広さのホスピタルガーデンが完成します。

このように皆さんが入学する関西医科大学は、大きく変化を遂げ、その後も躍進を続けていることをしっかりと頭に入れておいてください。

さて、皆さんは厳しい受験勉強を経て、めでたく本学に入学され、ホッとされていることと思います。しかし、大学に入ることがゴールではありません。単にスタートラインについたに過ぎません。医師になる2,000分の1歩がこれから始まろうとしています。特に初年度は、皆さんの学業生活から将来医師になってからの人生を大きく左右する重要な一年になります。皆さんは「病気で苦しんでいる人を一人でも救いたい」という気持ちでこの医学の世界を選んだことと思います。この初心の気持ちを決して忘れず、医師になるモチベーションを保ち続けて欲しいと思います。

さて、本学の建学の精神は「慈仁心鏡、すなわち慈しみ・めぐみ・愛を心の規範として生きる医人を育成する」で、昭和7年に本学2期生の当時19歳だった宮前澄子さんによって作詞された学歌のぞみの3番に出てくる、「慈仁(めぐみ)を心の鏡となして」に由来しています。この精神に則り、自由・自律・自学の学風のもと、学問的探究心を備え、幅広い教養と国際的視野をもつ人間性豊かな良医を育成することを教育の理念としています。この精神をひと時も忘れることなくこれからの6年間、教養を深め、医師として必要な知識、技能を学び、社会人としての常識、態度、人間性を身につけ、そして病める人の気持ち・感情が共感できる、良医をめざして勉学に励んでください。

次に皆さんのこれまでの勉強方法を大きく変える必要があります。これから学ぶ医学知識の量は年々増え続け、暗記力中心の勉強法だけではとても追いつかないからです。現在、どれくらいの数の病気が有るかという、約1万と言われています。しかし近年遺伝子診断など新しい診断技術の進歩によって、これまでわからなかった新たな病気が次々と登場してきています。皆さんは6年間で、人体の基礎から疾病まで、そのすべてについて学ばわけですが、当然覚えきれぬ量ではないですね。ではどうすればいいでしょうか。個々の知識の意味を理解し、整理し、そしてどの知識の扉を開けるかは自分で考え、それを自在に使いこなす知恵を学ぶ必要があります。最近インターネットを利用した表面的な知識しか取得していない学生が増えています。医学の知識は深く、もし間違えて理解していると将来とんでもない過ちを起してしまうこととなります。したがってあらかじめ予習した知識を、授業に出て先生の話聞く中で、正しく理解することが大切です。

しかし、私ども教員も限られた時間の中でそのすべてを教えることはできません。皆さんは「サンプルとレシピの関係」という話を聞いたことがありますか。例えば、ディナーで食べたパンを家でも食べたいと望むお客に、余分に焼いたパンを持って帰ってもらうか、パンを作るためのレシピを渡すか。サンプルを渡すだけでは、それを食べてしまえばおしまいですが、レシピを渡すと、材料を揃えれば何度でも作って食べることができます。つまり大学の教育はそのすべてを教えるのではなく、レシピに相当するキーワード、キーポイントを教え、後は自分で学習し、解決する能力を身に付けるのです。それによって未知の場面に遭遇しても自分で考え、判断できるようになるのです。皆さんはICTを応用した新しい学習システム(KMULAS)と呼びますが、これを用いて予習、復習を効率良く行い、教員と学生の双方向のアクティブラーニングを始めることとなります。

一方、大学というところは皆さんの自主性、主体性を引き出す場でもあります。これまで受験勉強のためにできなかった、堪えてきたことをこの機会に大いに発揮し、持っている才能や個性に磨きをかけてください。本学にはたくさんのクラブ活動があります。その活動を通じて、



多くの友人と素晴らしい人間関係を築いてください。また新しいことにもチャレンジして欲しいと思います。主体性を引き出すカリキュラムを少し紹介しますと、1年生の授業科目の中にノーベル賞を受賞された山中伸弥先生の講義があります。山中先生のように将来科学者を目指す人のための研究医養成コース、6年生では海外の医学・医療を学ぶ海外臨床実習などです。皆さんの一人ひとりがこの6年間を関西医科大学で過ごしたという何か証しを残して欲しいと願っています。そうすることによって母校愛が芽生えることになるでしょう。但し、勉学と自由活動のバランスが重要で、自分の能力を常に把握し、本来学ぶべき医学の勉強を最優先することを忘れないでください。

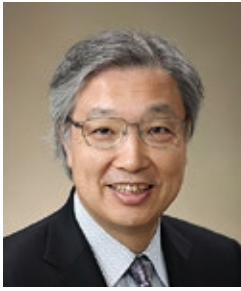
最後は、医学生であると共に社会人であるという自覚を持って行動してください。まず挨拶をしましょう。これは礼儀の基本であり、医師としての出発点でもあります。もう一つは身だしなみには注意してください。本当の自由はきちんとした規律の中にこそあることを忘れないでください。

さて、本日の入学式には、50年前に本学に入学された皆さんの先輩をご招待しています。まさに医療界で重鎮としてご活躍の方々が、ご多忙の中を皆さんの入学にエールを送るために出席していただきました。本学は常に同窓生の母校愛によって見守られていることを銘記してください。

最後に、新入生の皆さんには、これから関西医大人としての誇りを持って、実り多い学生生活を送られることを祈り、私の告辞といたします。本日は誠にありがとうございます。

整形外科科学講座教授に就任して

整形外科科学講座教授 齋藤 貴徳



平成29年4月1日付で関西医科大学整形外科科学講座の主任教授を拝命いたしました。森益太初代教授、小川亮恵第2代教授、飯田寛和第3代教授という優れた指導者のもと伝統を積み重ねてきた当講座を引き継がせていただくこととなりました。これまでご指導・ご支援いただきました整形外科医局員・同門の皆様、関西医科大学各教科教室の皆様、関西医科大学同窓生の皆様に深く感謝すると共に、この重責に身の引き締まる思いでございます。特に整形外科の同門の皆様には関西医科大学出身初の主任教授就任として歓迎していただき身に余る光栄に存じます。私は初代教授の最後の年に関西医大整形外科科学講座に入局し、3代の教授のもと教室の発展を身をもって体験して参りました。素晴らしい指導者のもと、医局の先輩方が少ない人数で日夜奮闘する姿を目の当たりにし、まさに講座の発展は先輩方の努力の賜であると思います。私自身は卒業後2年目に大学院に入学し、生理学第二講座で学位を取得後そのまま米国のアイオワ大学神経科に留学の上、電気生理学を学び、帰国後、末梢神経・脊椎疾患の新たな診断法の開発や、安全

に脊椎手術を行うための電気生理学的支援技術の開発に携わってきました。その後関西医科大学男山病院に転出、同院の閉鎖と共に現在の関西医大総合医療センターに異動し昨年まで勤務してきました。まさに関西医科大学と共に歩み、育てられここまでできたことに感謝しております。

今後は、各附属3病院が共に発展するよう努力して参りたいと思います。また、各臨床科や基礎医学講座と密に連携し、今後注目に値する整形外科分野の研究が進められるよう医局員と共に精進して行く所存ですので、今後ともご指導・ご鞭撻の程、何卒宜しくお願い申し上げます。

に脊椎手術を行うための電気生理学的支援技術の開発に携わってきました。その後関西医科大学男山病院に転出、同院の閉鎖と共に現在の関西医大総合医療センターに異動し昨年まで勤務してきました。まさに関西医科大学と共に歩み、育てられここまでできたことに感謝しております。

今後は、各附属3病院が共に発展するよう努力して参りたいと思います。また、各臨床科や基礎医学講座と密に連携し、今後注目に値する整形外科分野の研究が進められるよう医局員と共に精進して行く所存ですので、今後ともご指導・ご鞭撻の程、何卒宜しくお願い申し上げます。

略歴

昭和58年3月	関西医科大学卒業
昭和58年5月	関西医科大学 整形外科科学講座 入局
昭和60年1月	関西医科大学 整形外科科学講座 助手
昭和60年3月	関西医科大学 整形外科科学講座 助手退職
平成元年4月	米国アイオワ大学神経内科 clinical fellow
平成2年5月	関西医科大学 整形外科科学講座 助手
平成13年7月	関西医科大学附属男山病院転出 医長
平成16年11月	関西医科大学 整形外科科学講座 講師
平成17年8月	関西医科大学附属男山病院 整形外科 部長
平成19年7月	関西医科大学附属滝井病院 整形外科 部長
平成21年7月	関西医科大学 整形外科科学講座 准教授
平成21年11月	関西医科大学附属滝井病院 整形外科 病院教授
平成28年5月	関西医科大学総合医療センター 整形外科 病院教授(名称変更)
平成29年4月	関西医科大学整形外科科学講座 主任教授

肝臓病センター担当理事長特命教授に就任して

理事長特命教授・総合医療センター肝臓病センターセンター長 關 壽人



この度、平成29年4月1日付けで、理事長特命教授に就任致しました。まず初めに、特命教授にご推挙いただきました山下理事長に心より感謝申し上げます。またこれまでご指導、ご支援いただいた関西医科大学の関係各位の皆様には厚く御礼申し上げます。

私は、旧関西医科大学附属病院が附属滝井病院と改称された平成18年1月に消化器肝臓内科の診療部長に就任し、消化器病全般の診療責任として勤務して参りました。さらに当院が、平成20年7月、厚生労働省の設置許可をへて、大阪府内5カ所の肝疾患診療連携拠点病院の1つとして指定されたのを機に拠点病院としての事業を円滑に遂行するため平成21年3月に肝疾患センター（現、肝臓病センター）が設置され、現在、センター長として主に北河内医療圏の肝臓病診療を担っています。

私は、本学を卒業し、鮫島美子教授が主宰される内科学第三講座に入局させていただき、消化器、肝臓疾患診療の研修を開始。平成2年以降は、講師、助教授、診療

教授として肝臓疾患、特に肝臓の診療に従事するとともに、肝臓局所治療開発に積極的に取り組んで参りました。今後も、肝臓病センター長として総合医療センターにおける肝疾患診療の責任者として、常に向上心を持ち、特に慢性肝炎、肝硬変、そして肝臓へ進展する連鎖を断ち切るべく、最先端の診療レベルを常に維持してまいります。諸先輩が築き上げてきた、学内外での肝臓病診療の信頼をより強固のものとし、さらに関西医科大学の発展の一翼を担える若いスタッフの育成を心がけたいと考えております。

関係各位におかれましては、今後とも引き続きご指導、ご協力の程何卒よろしく御願ひ申し上げます。

略歴

昭和52年3月	関西医科大学卒業
昭和58年3月	関西医科大学内科学第三講座 助手
平成2年10月	関西医科大学内科学第三講座 講師
平成8年4月	関西医科大学内科学第三講座 助教授
平成16年4月	関西医科大学内科学第三講座 診療教授(肝臓内科)
平成18年1月	関西医科大学附属滝井病院 消化器肝臓内科 診療部長
平成21年4月	関西医科大学附属看護専門学校 学校長 関西医科大学附属滝井病院 肝臓病センター センター長
平成28年5月	関西医科大学総合医療センター 消化器肝臓内科 診療部長
平成29年4月	関西医科大学理事長特命教授 関西医科大学総合医療センター 肝臓病センター長

学長特命教授・医学教育センターセンター長に就任して

学長特命教授・医学教育センターセンター長 西屋 克己



平成29年4月1日付で、関西医科大学学長特命教授・医学教育センター長を拜命いたしました。平成23年10月にセンターが設立され、木下洋教授が初代センター長に就任されました。その後を引き継ぐ医学教育専門家として、職務の重責を痛感しております。

私は平成8年に奈良県立医科大学を卒業し、小児科学教室に入局し、大学および関連病院に勤務し、小児科一般および小児感染症学の臨床、血液凝固学の臨床および研究、そして卒前・卒後小児科教育に従事してまいりました。平成23年より岐阜大学医学教育開発研究センターで医学教育学を専攻し、現在、医学教育学を専門としております。

いま卒前医学教育領域では国内外において様々なムーブメントがあり、これに対応することが医科大学に求められております。学内諸部門と医学教育センターが協働して取り組むべき喫緊の課題としては、医学教育分野別評価受審に伴

う医学部教育体制やカリキュラムの整備、共用試験(CBT、OSCE)や国家試験などをクリアできる学生の学びの習慣と基礎学力の育成、建学の精神である「慈仁心鏡」に基づいた医療プロフェッショナルリズムの涵養などが挙げられます。医学教育センターは医学教育学の専門性を生かした、学内の様々な教育活動を後方支援していく部門であります。教育は「共有」であることをモットーに、皆様と共に良医の養成を目指して邁進してまいります。どうかよろしく願いいたします。

略歴

平成 8年 3月	奈良県立医科大学卒業
平成 8年 5月	奈良県立医科大学附属病院研修医(小児科)
平成 8年 5月	大阪市立大学医学部附属病院研修医(血液内科)
平成10年 4月	国立奈良病院小児科レジデント
平成12年 4月	奈良県立医科大学大学院医学研究科博士課程(小児科学)入学
平成16年 4月	市立柏原病院小児科医員
平成19年 4月	市立柏原病院小児科医長
平成20年 1月	奈良県立医科大学小児科医員
平成21年 2月	奈良県立医科大学小児科助教
平成23年 4月	岐阜大学大学院医学系研究科博士課程(医学教育学)入学
平成23年10月	奈良県立医科大学小児科講師
平成24年 4月	奈良県立医科大学小児科医局長
平成25年 3月	香川大学医学部医学教育学准教授
平成29年 4月	関西医科大学学長特命教授・医学教育センターセンター長

学長特命教授・国際交流センターセンター長に就任して — body and soul —

学長特命教授・国際交流センターセンター長 鈴鹿 有子



平成29年4月1日付けで学長特命教授・国際交流センターセンター長を拜命いたしました。第47回(昭和54年)の卒業生で、おうし座、B型、趣味はラテンで掃除はルンバ。耳鼻咽喉科に入局し4つの附属病院、他施設、海外留学を含め豊富な経験をさせていただきました。

19年前に金沢医科大学耳鼻咽喉科に准教授として着任したときからは関西医科大学の非常勤講師になりましたが、授業や同門会を通して大学とはずっと繋がってきました。また学生時代は軽音楽部に所属し、卒業後も現在に至るまでイベントには可能な限り参加し、身も心も“body and soul”に関西医科大学を感じ、生きてまいりました。

専門は耳鼻咽喉科、特に耳領域で難聴、めまい、耳鳴の症例はたくさん治療してきました。音声の改善手術や聴覚による脳機能分析などにも興味を持っていますので、耳鼻咽喉科医師も併任いたします。

このたび国際交流センターのセンター長になります。自分が行って習ってくるという形から、人を行かせて研修させる、また留学生を迎えて、育てて、送り出してから全く立場が異なります。国際交流センターがある医学部は全国で44校、82ある医学部全体の約半分です。大学の資質に大きくかわ

る評価要素ですので、役割は重要であると受け止めています。実績を踏まえながら、先駆者として新しいことも必要です。現在は見習うべき大学や施設、プログラムを広く搜しているところです。

26年ぶりに大学へ帰還すること、この感動をはずみにして金沢で培ってきたこと、永い人生の中で養ってきたことがお役に立てるよう尽力いたします。どうぞよろしくお願い申し上げます。

略歴

昭和54年 3,4月	関西医科大学 卒業、耳鼻咽喉科学入局
昭和55年 1月	高知市民病院医員
昭和56年 1月	関西医科大学附属岡山病院助手
昭和60年 6月	米国ハーバード大学医学部 耳鼻咽喉科学研究員
昭和62年11月	関西医科大学附属病院耳鼻咽喉科助手
平成 2年 3月	関西医科大学附属病院耳鼻咽喉科講師
平成 3年10月	大阪北通信病院耳鼻咽喉科主任医長
平成 3年12月	リバプール大学熱帯医学科疫学コース
平成 4年 3月	スイス世界保健機関本部(WHO)事務局難聴予防科コンサルタント
平成 7年12月	大阪北通信病院耳鼻咽喉科部長
平成10年 1月	金沢医科大学耳鼻咽喉科学助教授
平成11年 4月	関西医科大学耳鼻咽喉科学非常勤講師
平成20年 4月	金沢医科大学水見市民病院 耳鼻咽喉科特任教授、女医会「水月会」会長
平成21年 4月	金沢医科大学女性総合医療センターコーディネーター、石川県女性医師メンター
平成21年11月	金沢医科大学耳鼻咽喉科・頭頸部外科特任教授
平成28年 4月	金沢医科大学女性総合医療センターセンター長
平成29年 4月	関西医科大学学長特命教授・国際交流センターセンター長

看護学部設置準備室教授に就任して

看護学部設置準備室教授 片田 範子



平成29年4月1日に関西医科大学の教授として、看護学部設置準備室に配属されました。同年3月31日まで、兵庫県立看護大学開学以来、また後の兵庫県立大学看護学部として、小児看護の教授・看護学部長・看護学研究科長を勤めてまいりました。最後の1年は

大学本部の副学長をさせていただき、教育改革、男女共同参画事業などを所掌していました。

本学加多乃講堂で平成29年に入職なさった皆様とともに着任式に出席し、この日を迎えられることにほっとしています。看護学部設置準備室は2年前から準備を始めています。単科の医科大学として長い歴史を持つこの大学に看護の府として学部を持つこととお認めいただいたことは、既に他の看護系大学に広く知れるところとなり、この決断に敬意と期待を持って見守られています。とはいえ、3月末に文部科学省大学設置審査への書類を提出させていただき、審議結果をどきどきしながら、待っているところです。その間も次々と検討しておくべき課題があり、学生を迎えるための準備には拍車がかかると思います。

看護系大学は平成に入り急速に数が増えてきました。昨年4月の看護系大学数は254となっています。この流れ

は今年度も増加が見込まれていますが、同時期に社会の医療ニーズが大きく変わり、病院内だけではなく在宅において医療継続をしながら生活する人々が増えています。また、高齢化による健康状態への関わりも求められています。この変動は看護学教育にも反映されなければならず、カリキュラムが現在・未来へ向けて適したものになっているかが試されると思っています。医師を目指して学ぶ学生と看護職を目指す学生とがともに学ぶ機会が多く持てるよう今後ともどうぞよろしくお願いたします。

略歴

昭和48年 5月	アメリカ合衆国テキサス女子大学看護学部卒 (Bachelor of Science in Nursing)
昭和52年 5月	アメリカ合衆国テキサス女子大学看護学部修士課程修了 (Master of Science in Nursing)
平成 2年10月	アメリカ合衆国カリフォルニア大学サンフランシスコ校看護学部博士課程修了 (Doctor of Nursing Science)
昭和48年 1月	テキサス小児病院看護婦
昭和49年 1月	ブライアン病院非常勤看護婦
昭和50年 1月	ディター病院小児病棟看護婦長
昭和51年10月	聖路加国際病院看護婦 (新生児室)
昭和54年 4月	聖路加看護大学講師 (小児看護学)
昭和58年 4月	聖路加看護大学助教授
平成 5年 4月	兵庫県立看護大学看護学部教授 (小児看護学)
平成16年 4月	兵庫県立大学として統合看護学部長・大学院看護学研究科長
平成22年 4月	兵庫県立大学看護学部長・大学院看護学研究科長
平成26年 4月	兵庫県立大学大学院看護学研究科長
平成26年10月	日本学術会議会員
平成28年 4月	兵庫県立大学副学長

内科学第二講座不整脈担当診療教授に就任して

内科学第二講座不整脈担当診療教授 高木 雅彦



平成29年4月1日付けで内科学第二講座(総合医療センター)不整脈担当診療教授を拝命しました。ご推挙いただきました多くの先生方に心より御礼申し上げます。新しい職務をいただき大変光栄に思うとともに、その重責に身の引き締まる思いです。

私は平成10年から国立循環器病センターにて臨床不整脈学を学んだ後、平成12年より大阪市立大学循環器内科にて臨床不整脈分野を立ち上げ、若手医師を育てつつカテーテル心筋焼灼術、植込み除細動器(ICD)、両心室ペースメーカー(CRT-P)、両心室ペースメーカー機能付きICD(CRT-D)の植え込み症例数を毎年着実に増加させてまいりました。その結果、これらの治療に対する認定施設、不整脈専門医研修施設の基準をクリアし、さらに冷凍凝固心筋焼灼術や完全皮下植え込み型ICDなど本邦における最先端医療を早期に導入し患者様に提供してまいりました。研究面では国立循環器病センター研修中より「ブルガダ症候群の病態と発症危険因子の解明」をテーマとして臨床研究を行い、本邦での多施設共同研究を牽引し遂行してまいりました。

今後は関西医科大学におきまして、臨床不整脈分野を立

ち上げ、若手医師を育てつつ、より多くの近隣の患者様に最先端の医療を提供できるよう精進したいと考えております。また、臨床不整脈の検査・治療の中から未解決な問題を若手医師にテーマとして与え、本学からより多くの情報発信ができるよう臨床研究も進めたいと考えております。

総合医療センター心臓血管病センター不整脈担当となりますが、内科学第二講座塩島一朗教授のもと、関西医科大学の発展に貢献できるよう努力する所存ですので、今後ともご指導、御鞭撻の程何卒よろしくお願申し上げます。

略歴

平成元年 3月	大阪市立大学医学部卒業
平成元年 6月	大阪市立大学第一内科学講座入局
平成元年 6月	大阪市立大学医学部附属病院 研修医
平成 3年 4月	大阪市立大学大学院医学研究科博士課程入学
平成 7年 3月	大阪市立大学大学院医学研究科博士課程修了・学位取得
平成 7年 4月	芦原病院(現:浪速生野病院)内科医員
平成 8年 4月	大阪市立大学医学部附属病院 研究医
平成10年 5月	国立循環器病センター専門修練医
平成12年 5月	大阪市立大学医学部附属病院 研究医
平成15年 1月	大阪市立大学大学院医学研究科 循環器内科学 病院講師
平成15年 7月	大阪市立大学大学院医学研究科循環器内科学助手
平成18年10月	大阪市立大学大学院医学研究科循環器内科学講師
平成19年 2月	関西医科大学 非常勤講師
平成26年 4月	大阪市立大学医学部附属病院 心血管疾患集中治療部 副部長
平成27年 7月	大阪市立大学大学院医学研究科循環器内科学 准教授
平成29年 4月	関西医科大学内科学第二講座不整脈担当 診療教授

心臓血管外科学講座血管外科担当診療教授に就任して

心臓血管外科学講座血管外科担当診療教授 善甫 宣哉



平成28年12月16日付で心臓血管外科学講座血管外科担当診療教授を拝命しました。14年ぶりの大学病院勤務で職責の重さに身が引き締まる思いです。

私は昭和56年、筑波大学を卒業後、山口大学第一外科で主に血管外科の臨床と研究を行なって参りました。昭和63年学位取得後、平成3年より平成5年まで2年間米国ワシントン州立ワシントン大学血管外科で血管内膜肥厚の機序と抑制に関する基礎研究を行いました。帰国後、平成8年から胸部・腹部大動脈瘤に対するステントグラフト治療を開始し、平成14年山口県立総合医療センター移動後も胸部・腹部大動脈瘤に対するステントグラフト治療を20年以上にわたり行ってきました。企業製腹部ステントグラフトが保険償還されてから10年が過ぎ、胸部ステントグラフトも保険償還後9年経ちますが、弓部大動脈瘤やB型大動脈解離に対するステントグラフト治療など、未だ解決すべき問題点が数多く残されています。また、今後も様々な新しいデバイスが出てくるのが予想され、飛躍的に発展する血管外科分野と考えております。

大阪府はもちろんのこと北河内地区に居を構え勤務することは初めてです。大阪弁と大阪人気質になじめるか不安でしたが、と

ても住みやすく、患者さんやスタッフの皆様が気さくな人が多く無用の心配でした。

関西医科大学附属病院の血管外科を立ち上げるにあたり、スタッフがおらず体制づくりから始めなければなりません。心臓血管外科主任教授の湊直樹先生ならびに滝井の総合医療センター血管外科診療教授の駒井宏好先生、心臓血管外科診療教授の細野光治先生と協調の上、少しずつ着実に体制を構築していきたいと考えております。

皆様方のご指導、ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

略歴

昭和56年3月	筑波大学医学専門学群卒業
昭和56年5月	山口大学医学部附属病院医員(第1外科)
昭和56年8月	厚生連周東総合病院医師(外科)
昭和58年8月	山口大学医学部附属病院医員(第1外科)
昭和61年8月	山口労災病院医師(外科)
昭和63年9月	山口大学助手医学部附属病院(第1外科)
平成3年9月	同上休職、米国州立ワシントン大学外科研究員
平成5年8月	山口大学助手医学部(外科学第1講座)
平成6年7月	山口大学講師医学部附属病院(第1外科)
平成10年8月	山口大学助教授医学部(外科学第1講座)
平成14年7月	山口県立中央病院外科部長
平成15年11月	山口大学医学部臨床教授
平成21年4月	山口県立総合医療センター-外科診療部長
平成28年12月	関西医科大学心臓血管外科学講座血管外科担当診療教授 関西医科大学附属病院血管外科診療科長

麻酔科学講座呼吸器外科麻酔担当診療教授に就任して

麻酔科学講座呼吸器外科麻酔担当診療教授 萩平 哲



平成29年4月1日付で、麻酔科学講座呼吸器外科麻酔担当診療教授を拝命致しました。これまで研鑽を積んで参りました臨床の知識や技術を後進に伝え発展させていくと共に、研究面でも新たな発展を目指したいと考えております。

私は昭和60年に大阪大学医学部を卒業し、大阪大学医学部附属病院、関西労災病院、大阪府立羽曳野病院(現大阪はびきの医療センター)で臨床経験を積みました。特に羽曳野病院では5年間、様々な呼吸器疾患患者の胸部手術の麻酔管理や低肺機能患者の腹部手術の麻酔などを学びました。また、大阪大学では呼吸器外科だけでなく心臓外科、小児外科、産科などの特殊麻酔も多く手がけて参りました。研究面では、大学院時代は解剖学教室で免疫組織化学の手法を用いて脊髄痛覚系の解析を行いました。その後麻酔中の脳波解析を通して麻酔管理の基本概念やその実践といった臨床研究に軸を移して参りました。種々の解析をリアルタイムに行い臨床に活かすために自前でソフトウェアを構築しフリーソフトウェアとして普及させました。学会でも適切な鎮静と鎮痛をコ

ントロールして最適の麻酔を行うための知識や方法を繰り返し講演して参りました。現在ではかなりの患者さんに対して脳波モニターを元に最適に近い麻酔を行うことが可能となっております。この方法は例えば脳外科の覚醒下開頭術などの特殊な管理にも応用できるものであり、大阪大学では覚醒下開頭術の管理の指導も行っていました。

臨床、研究、教育の全てに力を注ぎ、上林教授の元で関西医科大学の発展に貢献できるよう取り組んで参りますので今後ともご指導、ご鞭撻の程何卒よろしくお願い申し上げます。

略歴

昭和60年3月	大阪大学医学部卒業
昭和60年7月	大阪大学医学部附属病院麻酔科医員(研修医)
昭和61年4月	大阪大学大学院医学系研究科博士課程入学(外科系麻酔学)
平成2年4月	大阪大学医学部研究生(麻酔科)
平成2年6月	大阪大学医学部附属病院麻酔科医員(シニア非常勤)
平成2年7月	関西労災病院麻酔科医長
平成4年7月	大阪大学医学部助手(麻酔科)
平成10年7月	大阪府立羽曳野病院麻酔科医長、手術室長
平成14年4月	大阪府立羽曳野病院麻酔科部長
平成15年7月	大阪大学大学院医学系研究科助手(麻酔科学)
平成17年11月	大阪大学医学部附属病院講師(集中治療部)
平成26年4月	大阪大学大学院医学系研究科准教授、病院教授(麻酔・集中治療医学)
平成28年3月	大阪府立急性期・総合医療センター麻酔科部長、中央手術部長
平成28年3月	大阪大学大学院医学系研究科招へい教授(麻酔・集中治療医学)
平成29年4月	関西医科大学麻酔科学講座呼吸器外科麻酔担当診療教授

麻酔科学講座麻酔科担当診療教授に就任して

麻酔科学講座麻酔科担当診療教授 村尾 浩平



平成29年2月1日付で関西医科大学総合医療センター担当麻酔科診療教授を拝命いたしました。ご推挙いただきました岩坂壽二病院長、新宮興麻酔科名誉教授、ご支援いただいた多くの先生方に心より御礼申し上げます。

私は昭和62年に関西医科大学を卒業いたしました。揮発性麻酔薬の抗痙攣作用の研究で私立医科大学麻酔科教授会優秀論文賞、左旋性プピバカイン痙攣誘発量の研究で関西医大加多乃賞をいただきました。臨床研究ではフェイスマスク、気管挿管に続く第三の気道確保器具である声門上器具の研究を行い、多数の挿管困難症例でその有用性を実証しました。

阪神・淡路大震災後、大阪北通信病院麻酔科勤務時には、災害に強い手術室を作るため郵政省福利厚生課に兼務する機会を頂き、東京通信病院をはじめとたくさんの方の病院建築に参加することができました。この経験をもとに平成14年から17年までは関西医科大学附属枚方病院(現附属病院)の手術室と集中治療室、平成24年からは同附属滝井病院(現総合医療センター)の手術室の設計と運用を担当いたしました。母校の附属病院を設計し運用する機会を二度

も得ることができた自分は果報者と感謝しています。

関西医大総合医療センターでは手術室に隣接した術前外来室を設置し、すべての麻酔科管理患者の術前と術後の診察を行っています。充実した周術期管理を行うことで患者に最適な麻酔を提供できるものと考えています。

平成24年より関西医大総合医療センターは心臓血管外科、呼吸器外科の再開、末梢血管外科、乳腺外科の新設、日本で最も多く手術をしている脊椎外科や積極的に患者を受け入れる救命センターの改編などで、2,500例であった全身麻酔症例数は平成28年には3,466例と大きく増加しました。今後も関西医大の発展のため頑張っていきますのでご指導ご鞭撻の程なにとぞよろしくお願い申し上げます。

略 歴

昭和62年 3月	関西医科大学卒業
昭和62年 6月	大阪赤十字病院整形外科(研修医)
平成元年 6月	関西医科大学附属病院麻酔科(研究医員)
平成 2年10月	関西医科大学附属洛西ニュータウン麻酔科(助手)
平成 7年10月	大阪北通信病院(主任医長)
平成12年 6月	関西医科大学助手(麻酔科)
平成15年 4月	関西医科大学附属病院麻酔科講師 手術部副部長
平成18年 1月	関西医科大学附属枚方病院麻酔科講師 手術部副部長
平成19年 4月	大阪府済生会茨木病院副院長
平成24年10月	関西医科大学麻酔科学講座准教授(麻酔科)
平成24年11月	関西医科大学附属滝井病院麻酔科病院教授
平成26年 4月	関西医科大学附属滝井病院麻酔科部長
平成29年 2月	関西医科大学麻酔科学講座麻酔科診療教授(総合医療センター担当)

救急医学講座救急医学科担当診療教授に就任して

救急医学講座救急医学科担当診療教授 中森 靖



平成29年4月1日付で、関西医科大学救急医学講座救急医学科(総合医療センター)担当診療教授を拝命いたしました。平成25年4月に関西医科大学附属枚方病院(現附属病院)救命救急センターに赴任し、同年11月からは附属滝井病院(現総合医療センター)救命救急センターに異動となり4年間関西医科大学の一員として主に臨床に従事してまいりました。滝井病院救命救急センターは、大阪府で3番目に認可を受けた伝統ある施設で、主に外傷、熱傷、中毒など重症救急患者を受入れてきました。しかし社会背景は大きく変わり、外傷や熱傷は減少し、一方で高齢者の急病が急増しています。滝井病院救命救急センターも変化が求められていた3年半前に救急医学科部長を拝命しました。病院の玄関口である救急部門をいかに活性化するかが私に課せら

れた使命でありました。かかりつけ患者を断らない、救急車は救命救急センターが一元的に受入れる、高齢者救急や精神科救急にも力を入れるなど三次救急にこだわらない地域のニーズに合致した救命救急センターを目指してやっけてまいりました。一方でIVR-CTを初療室に設置したHybrid ERを整備し、高度で最先端の救命医療にもチャレンジしております。今後も臨床、臨床研究、研修医教育などにおいて目標を高く持って努力を続けていく所存であります。

略 歴

平成 7年 3月	大阪大学医学部医学科卒業
平成15年 3月	大阪大学医学部医学系研究科 大学院卒業
平成 7年 6月	大阪大学医学部附属病院 特殊救急部 研修医
平成 8年 6月	大阪警察病院外科 レジデント
平成10年 6月	大阪大学医学部附属病院 高度救命救急センター 医員
平成15年 8月	大阪府立急性期・総合医療センター 高度救命救急センター 診療主任
平成23年 4月	大阪府立急性期・総合医療センター 高度救命救急センター 副部長
平成25年 4月	関西医科大学 救急医学講座 准教授
平成25年11月	関西医科大学附属滝井病院 病院教授・救急医学科部長
平成28年 5月	関西医科大学総合医療センター 総合集中治療部部長兼任

退任の挨拶

物理学教室前教授 影島 賢巳



物理学教室教授を拝命し最初に直面したのが、難関の入学試験を勝ち抜いて入学したハイレベルな関西医科大学生に、これ以上何を教えられるのだろうかという問題でした。しかし学生

に接してみると、いわゆる大学受験的知識は持っている、そもそも科学とは何であり何のために存在するか、という根本問題に関しては意外なほどに白紙であることに気づきました。

これは、現代の理科教育、ひいてはそこに大きく影響する大学入試のシステムによるところが大きく、結局私のような立場の人間の責任もあるのだろうと思い、物理学を教育する意義の一つとして、「自然に対する畏敬の念と科学の精神を醸成する」という大仰な目標を自らに課してみました。しかしこれは「そもそも自分自身がそんな物を持っているか？」という問いとなって即座に我が身に跳ね返ってくる問題でした。そこで、それまで目を

向けたことのない科学哲学の書物などまで読み漁り、学びながら教える目まぐるしい日々を過ごすことになりました。前任校の教育学部では、教職を目指す学生たちに「教えることは学ぶことだ」と説いて勉強させていたのが、今度は自ら同じ状況に我が身を追い込んでいるという全く滑稽の極みですが、講義、演習、実験、レポートというサイクルを指導することで、「現象をじっくり見てその背後にあるものを考える」という科学的姿勢を、学生に植え付けられた手ごたえを多少は感じられるまでになりました。

「学校で学んだことをすべて忘れた後に残るものが真の教育である」というのはアインシュタインの言だったと思いますが、せめて学生達の中に少しでも何かが残って、これから医師として生きる中で助けになってくれたらと願っております。

末筆ながら、未熟な私をこれまでお導き下さった関西医科大学の諸先生方はじめ関係各位に厚くお礼申し上げます。退任のご挨拶とさせていただきます。

退任の弁

解剖学第二講座前教授 杉本 哲夫



あらためてふり返りますと、本学にお世話になりました昭和63年4月からおよそ30年間、長いようで短い学園生活を送ることができました。在職中は公私にわたって大勢の皆様から温かい叱咤激励のメッセージをいただくことができ、

大変感謝しています。

着任間もなく昭和が終わって平成の世になりました。当時は社会の大きな変化がまとまって起こったことを覚えております。平成元年(1989年)には天安門事件、ベルリンの壁崩壊、翌年ドイツ再統一、翌々年にはソビエト連邦崩壊などです。

当時の本学でもまさにカリキュラム改革が次々と進行しておりましたので、解剖学の教室にもたまたみかけるように新しい教育カリキュラムが押し寄せてまいり、長期にわたる解剖学実習を一年間に2回実施するなど大変しんどい思

いをしたことも思い出されます。

専門部の学生部長を拝命しておりました平成7年(1995年)には阪神淡路大震災が起きました。少なからぬ人数の本学関係者も被災されました。学生委員会では割合早い時期に臨時奨学金を導入するなど、皆が自然に助け合うという内発的な互助の精神が醸し出された時代でありました。

私にとりましてはこれ以降も研究・教育を含む様々な日常活動でかけがえのない貴重な経験を積み重ねることができました。温かい年長の先生方、同僚、とくに優れた教室の人材に恵まれて、研究でも教育でも好きなことを存分に実行することができました。今後はそれぞれの分野で私の得た経験を生かしてゆくことで恩返しを心がけてゆきたいと存じます。4月からは看護学部設置準備室教授として勤務することになりました。新たな仕事に当たりまして、より一層の精進を重ねてまいる所存です。引き続き、ご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

退任にあたって

病理学第二講座前教授 螺良 愛郎



昭和50年に本学を卒業後直ちに、当時森井外吉教授が主宰されていた病理学第二講座に助手として採用された。1年間の病理業務全般の修練を経て、Chicago大学Ben May 癌研究所への留学も経験した後に、滝井での研究生生活をスタートしたが、当時の滝井1号館1階の病

理研究室では、前日に実験装置を組み立てて翌朝出勤してみたら、実験器具の表面に薄埃が被っているような研究環境であった。その後研究室は新築の滝井2号館3階に移転し、一定の環境改善はみたものの、講座全体の環境が整うには、大学の枚方移転まで待たねばならなかった。しかし、恩師の庇護のもと、マウス乳癌前癌病変の解析、マウス乳癌ウイルスの体内生活環の解明といったテーマに対して、かけがえのない卒後18年という貴重な時を過ごすことができた。

平成5年には恩師の退任を迎えるが、幸運にも後任に選出された。教授就任に際して、講座の研究として、ラットの乳

癌モデルやヒトの乳癌培養細胞モデルを駆使して、経産による乳癌の制御とその機序解明や乳癌抑制能を有する天然化学物質の同定といったテーマを掲げた。さらにラット乳癌の発癌剤として頻用していた薬剤に視細胞死滅能を有することを偶然にも見出し、ヒト網膜色素変性症の動物モデルを確立するとともに、種々の病態制御実験も施行した。これらに対し、平成5年以降今日に至るまでの24年間で37名に学位が授与された。

私達病理の根幹は、病因を解明することであり、病態の病理学的な理解には生検や剖検といった病理業務の経験が必須である。実験病理と人体病理は振り子さながらに、人体で得た疑問を実験で証明し、実験で見出した結果を人体に外挿する。苦楽を共にした仲間達は、ここでの教育や体験をその後の人生で役立てているであろうか。教師の栄光は自分に続く弟子を育てるのではなく、自分を超越する賢人を育てることにある。退任にあたり、未だ見ぬ賢人の出現を切望するとともに、大学の更なる発展を熱望いたします。

整形外科科学講座教授退任にあたって

整形外科科学講座前教授 飯田 寛和



平成12年9月に本学に着任してから16年半勤務させて頂きました。当時は全く“枚方”という地名はうわさにもあがっていなかったと思います。それが今年附属病院は開院11年を迎え既にその存在は確固たるものとなっていますし、新香里病院、枚方学舎、総合医療

センター新本館の開院で、当時存在していた建築物は滝井の北館、南館のみとなり全く新しい大学として衣替えしたことになります。15年前には想像すらできなかったことで喜ばしいかぎりです。舵をとられた歴代理事長の英断も大きいと思いますが、一連の事業の原動力となった職員の力、特に診療にフル回転して頂いた整形外科スタッフには深謝致します。

この間新臨床研修制度の導入によって2年間ブランクがありその後も少ない新入局者の中でよく今に至れたものであり感慨深いものがあります。同じ16年間で先代の故小川亮恵先生は121名の医局員を育てられました。小生の期間の入局者は63名でした。その結果関連病院の維持困難や、研究面への余力が不足したことには力不足を感じております。

診療面では約3,500例の人工股関節置換術と再置換術、股関節形成術等を行って参りました。この分野の難症例に対する最後の砦の役割もできるようになりました。幸い患者さんからも高い評価を頂き、多くの専門家と学閥を超えた深い交流を行うことができ、教室員の成長にも繋がったと思います。滝井病院、香里病院も赤木・齋藤部長、児島部長を中心に頑張って頂き大変貢献して頂きました。

教室運営では、強制はせず自主性を重んじてきました。軍隊式にやればもっと成果が出たかもしれませんが、教授としてではなく一人の医師としての背中を見せてきたつもりです。“単なる人事や学会業績よりも、立派な整形外科医をどれだけ輩出させたかを示しうる教室でありたい”という小川先生の言葉には、充分応えられてはいませんが少なくともその種は蒔けたのではないかと感じています。

「先の事を考える前にその時に全力のこををする習慣をつけなさい。全力ダッシュの先に未来があり、未来は結果であり目的ではない」という言葉があります。若い先生方には是非このことを理解して頂いて頑張ってくださいと思います。

4月からは理事長特命教授として総合医療センターで勤務することになりました。今後も御世話になりますが、宜しくお願い致します。

退任のご挨拶

前学長特命教授・医学教育センター前センター長 木下 洋



平成23年10月1日に山下敏夫理事長・学長(当時)のご指示により医学教育センターが発足し、枚方新学舎での本学教育理念に基づいた真の6年一貫教育を具現化するための新カリキュラム推進が図られ、同センター長・学

長特命教授を拝命いたしました。当時教務部長の友田幸一現学長のご指導のもと、本学入学直後から始まる1学年シミュレーション実習を介してのプロフェッショナルリズムの醸成、学外地域医療実習・学内医療実習、4学年での完全型チュートリアル、臨床推論の基本を体得するプレクリニカルクラークシップなど、実際の医療に不可欠な知識・態度・技術を学生自らが体験し、続く診療参加型臨床実習に備える過程を支援して参りました。これらの実習には各診療科の教員の方々をはじめ学部事務局長、看護部の皆様方には多大のご支援をいただきましたことを心から御礼申し上げます。また、看護実習や臨床

実習など病院キャンパス内で患者さんやご家族と接する場での医学生態度・服装指導にも特に力を注ぎました。お陰様で各地の学外他施設で実習させていただいた本学学生の評判はすこぶる良好で、新学舎で育った新5学年(第87期生)のCBT成績は顕著に向上し、2年後の国家試験成績も本学の高入学難易度に相応した期待ができる状況になって参りました。

昭和49年に松村忠樹先生の小児科学教室に入局後、昭和50年男山病院分娩育児部開設、昭和53年附属病院NICU開設、存阪5大学で初の総合周産期母子医療センター認可など本学の伝統ある周産期新生児医療の発展の夢と歴史とを臨床現場で体感させていただきました。入学以来49年お世話になりました関西医科大学で、最期の5年間を本学の卒前医学教育の大変革に参画できました事を誇りに思いますとともに、ご厚情ご支援賜りました皆様に厚く御礼申し上げます。伝統ある本学の益々の発展を心からお祈り申し上げます。

退任のご挨拶

外科学講座小児外科前診療教授 濱田 吉則



昭和52年に本学を卒業し、昭和59年に外科学講座助手として入職以来、本学には33年間お世話になりました。附属病院に小児外科診療科は平成16年に開設されましたが、平成26年に外科学講座小児外科診療教授に就任させていただいた3年間を含め

て、一貫して本学におきまして小児外科の診療、研究、教育を担当させていただきました。

診療では、できるだけ小さい傷で同じ治療結果を出すことを目的に、国内でいち早く平成7年から腹腔鏡手術を小児外科に導入しました。また平成9年には、日帰り手術を麻酔科など関連各科のご協力のおかげで、国内の大学病院としては早い時期に導入することができました。移植センター、再生医学難病治療センター、癌治療センターなどに参加し、平成27年には小児医療センターの開設にも関わらせていただきました。対外的には、

科学研究費委員会委員、大阪府国民健康保険診療報酬審査委員会委員のほか、医療問題学外委員を務めて参りました。また、全国規模の学会や研究会の主催、日本小児外科学会の理事、会長も経験することができました。お蔭様で多くの国内外の小児外科医とともに非常に充実した日々を送ることができました。ご支援いただきました教室、同門会、同窓会、大学の皆様に心から感謝しております。

小児外科は大きな外科の一部ですが、大学病院に必要な診療部門であると自負しています。新しい専門医制度が始まりますが、小児外科学会が認定する指導医資格は非常に貴重で、本学が日本小児外科学会認定施設として継続できる必要条件です。今後は本学の小児外科を後ろから支えられる人材となり、引き続きいくつかの研究会の代表世話人や委員会委員長として、研究会での活動を通じて小児外科学と医学の発展に寄与していければと考えています。来年創立90周年を迎える関西医科大学のさらなる発展を心より祈念しております。

附属看護専門学校学校長就任のご挨拶

附属看護専門学校長 楠本 健司



平成29年4月1日付で学校長を拝命いたしました。

本校は、昭和7年に大阪女子高等医学専門学校附属看護婦養成所として開所され、昭和59年に関西医科大学附属看護専門学校と改称されました。平成7年から医療専門課程看護学科として「専門士」を輩出し、卒業生は母体である附属病院、総合医療センター、香里病院、天満橋総合クリニックをはじめ、近畿圏から全国の医療機関、教育機関、さらには海外にて医療に貢献しています。

近年、医療の進歩と社会の変化、価値観の多様化に伴い、医療は日々進化しています。看護師に求められるのは、ベッドサイドの患者ケアに始まり、先進医療から在宅医療にいたる幅広い知識や技術と、特定の分野での卓越した専門的能力です。患者ファーストの優しさと思いやりの心を持ち、常に医療安全に配慮して行動し、高い倫理観とコミュニケーション能力を身につけることが大切です。本校では、

関西医科大学の建学の精神である“慈仁心鏡”の思いを以て教育し、最先端かつ多様な医療を学ぶ環境が整っています。

長い歴史と伝統を持つ本校は、平成25年の夏に大阪市旭区の高殿の地から関西医科大学発祥の地である枚方市の牧野に移転しました。この緑豊かですばらしい牧野の環境は、患者に寄り添う思いやりの心を必ずや育むことと信じています。今般、学校長を拝命し、大きな責任を感じております。身を引き締めて職務を全うしたいと思っておりますので、皆様からの暖かいご支援とご指導を賜りますよう、宜しくお願い申し上げます。

略歴

昭和55年3月	鳥取大学医学部医学科卒業
昭和55年6月	京都大学医学部附属病院 形成外科 研修医
昭和57年12月	京都大学医学部 口腔外科学教室 助手
昭和60年5月	天理よろづ相談所病院 形成外科 医員
昭和62年7月	京都大学医学部附属病院 形成外科 医員
昭和63年4月	公立豊岡病院 形成外科 医長
昭和63年7月	京都大学医学部 形成外科学教室 助手
平成2年3月	関西医科大学 形成外科学講座 講師
平成9年11月	関西医科大学 形成外科学講座 助教授
平成18年4月	関西医科大学 形成外科学講座 教授
平成29年4月	関西医科大学附属看護専門学校 学校長

平成29年度入職式

4月1日(土)午前9時30分から枚方学舎加多乃講堂において「平成29年度入職式」が行われました。本年度は任期付助教(専修医)以上の教育職105名、看護職159名、医療技術職26名、事務職11名の計301名が入職し、列席した新入職員たちで加多乃講堂は満員となりました。

冒頭、山下敏夫理事長の訓辞では、日本の医学・医療の現状に関して説明され、また濱地藤太郎によって創設された大阪女子高等医学専門学校に始まる本学の歴史、特定機能病院を含む4医療機関を持ち日々さらなる発展を続ける本学の現状が紹介されました。続けて私立医科大学としての本学の使命に触れつつ「建学の精神である『慈仁心鏡』を基盤に、教育・研究・診療に励んでほしい」「『夢』を持ち、『夢』を語り、『夢』を叶え」てほしいと語りかけ、新入職者たちは神妙な面持ちで耳を傾けました。

続いて、教育職を代表して西屋克己学長特命教授、西浦崇任期付助教の2名が、看護職を代表して振角優花氏、医療技術職を代表して中野翔平氏、事務職を代表して澳真由子氏が、山下理事長から交付される採用辞令を受け

取りました。

その後は、入職者を代表して鈴鹿有子学長特命教授(国際交流センターセンター長)が「身の引き締まる思いであり、期待に応えられるよう励みたい」と答辞を述べ、入職式が幕を閉じました。



辞令を手渡す山下理事長

関西医科大学創立90周年記念事業募金のご案内

【募金趣意書】

関西医科大学は平成30年6月に創立90周年を迎えます。

本学は昭和3年6月に前身の大阪女子高等医学専門学校として創設者の濱地藤太郎によって和辻春次を初代学長に迎えて大阪の牧野の地に創設されました。以降、慈しみ・めぐみ・愛を心の規範とする「慈仁心鏡」を建学の精神として受け継ぎ数多くの良医を育成し、総数8,000余名の卒業生を社会に送り出してきました。現在では、医学部および大学院、北河内医療圏に3附属病院と1クリニック、附属看護専門学校を擁する西日本有数の医科大学として発展を遂げております。

創立90周年を迎えるに当たり、更なる発展を期し社会の付託に応えるため、附属病院群整備事業の完遂、看護学部棟建設、武道館を備えた講堂の建設等を進めること、さらに国際交流センターとホスピタルインの機能を備えたタワー棟の建設、最先端医学研究所の設置を検討すること等の事業計画を立て、これらを実現することを目指しております。

このような大きな周年事業を進めるには、本学が経営基盤の強化や収支の改善に取り組むことは当然のことながら、関係各位のご支援なくしては到底実現できるものではありません。ここに創立90周年記念事業募金を開始し、関係各位にご理解とご協力とご支援をお願いするものです。

本学の将来の持続的発展の礎を築くために皆様のお力添えを賜りたくよろしくお願い申し上げます。

平成29年4月

関西医科大学創立90周年記念事業実行委員会
委員長 理事長 山下 敏夫
関西医科大学創立90周年記念事業募金委員会
委員長 学長 友田 幸一

【募集要項】

1. 募集対象

同窓会会員、本学学生の保護者、教職員、本学関連の個人および法人

なお、同窓会会員には牧野講堂(武道館)建設募金といたします。

2. 募集金額

1口10万円、申込口数1口以上。

多数口のご協力をお願い申し上げます。1口未満も申し受けます。

3. 募集時期・期間

○第1期募集(平成29年度)

申込期間 平成29年4月5日～平成30年3月31日

払込期間 平成29年4月5日～平成30年3月31日

○第2期募集(平成30年度)

申込期間 平成30年4月5日～平成31年3月31日

払込期間 平成30年4月5日～平成31年3月31日

4. 申込方法

寄付申込書に所定事項をご記入ご捺印のうえ、返信用封筒にてお申してください。

寄付申込書は下記の3種類をご用意しておりますので、いずれかをご提出ください。

- ・個人の場合：特定公益増進法人申込書(個人用)
- ・法人の場合：受配者指定寄付金申込書
特定公益増進法人申込書(法人用)

5. 払込方法

一括払込と分割払込の2種類があります。

6. お問い合わせ先

関西医科大学法人事務局募金室

〒573-1010 大阪府枚方市新町二丁目5番1号

TEL：072-804-2146 FAX：072-804-2344

メール：bokin@hirakata.kmu.ac.jp

URL：http://www.kmu.ac.jp/bokin/index.html

ご不明な点は募金室までお問い合わせください。

施設設備整備拡充資金として平成29年1月1日から平成29年3月31日までに寄付いただきました方々のご芳名(五十音順)を掲載させていただきます。ご芳志に対して衷心より感謝申し上げます。

ご芳名のwebサイトでの掲載は控えさせていただきます。

本学創立90周年を記念して、周年ロゴを策定



1928年(昭和3年)に産声をあげた本学は2018年(平成30年)、創立90周年の記念すべき年を迎えます。また、前号既報の通り90周年記念事業として「看護学部・看護学研究科設置」や「総合医療センターホスピタルガーデンの整備」、「牧野講堂(武道館)建設」など、様々な取り組みが動き出しました。これら数々の周年事業の旗頭として今回、90周年記念ロゴを策定しましたのでお知らせします。

このロゴは本学のスクールカラーであるえんじ色を基調とし、女性の高等医学教育機関として出発した本学のルーツから女性らしさを表現するリボンモチーフをモチーフとしました。また、一筆書きで描かれた「90」の文字は、今後の100周年、そしてその先へと続く未来へのつながりを表現しています。

英語表記の大学名が記載されているものと記載されていないものの2種あります。利用に際しては広報戦略室までお問い合わせください。

創立90周年記念フォトコンテスト開催

関西医科大学は昭和3年(1928年)に創立され、平成30年(2018年)に創立90周年を迎えます。そこでこの度、記念事業の一環としてフォトコンテストを開催することとなりました。

■テーマ：「関西医科大学の四季」

本学を象徴・イメージする四季折々の写真。学舎だけでなく、附属の各機関に関わるものであれば、題材は問いません。

■応募資格：平成30年6月30日(土)時点で本学在籍(または予定)の教職員、学生、看護専門学校学生、名誉教授、同窓会会員

■作品募集期間：平成30年3月1日(木)～平成30年3月31日(土)

■応募方法：持参または郵送

※詳細は決まり次第、本学公式サイトでお知らせします。
多数のご応募をお待ちしています。



今号掲載期間の主な出来事をご紹介します (記事掲載はオレンジ太字)

法人	2月18日	第9回地域医療連携フォーラム	
	4月1日	入職式	
	1月6日	パプアニューギニア医師来学	
	1月18日	臨床研究ワークショップ	
	1月24日	慶熙大学校副総長来学	
	1月28日	一般入学試験(前期)第1次試験	
	2月4日	大学院後期入学試験	
	2月6日	第1回関西公立私立医科大学・医学部連合シンポジウム	
	2月12日	一般入学試験(前期)第2次試験	
	2月16日	一般入学試験(前期)・センター利用入学試験合格発表	
大学	2月17日	第133回学内学術集談会	
	2月18日	4学年OSCE	
	2月24日	グラスゴー大学教授来学、講義	
	3月1日	平成28年度医学部卒業式	
	3月4日	一般入学試験(後期)第1次試験	
	3月14日	一般入学試験(後期)第2次試験	
	3月15日	業務改善コンテスト	
	3月17日	産学官協創フォーラム	
	3月17日	一般入学試験(後期)合格発表	
	3月28日	平成28年度留学研究賞授与式	
附属病院	3月28日	大学院学位記授与式・医学会賞受賞式	
	4月5日	平成29年度医学部入学式	
	1月21日	市民公開講座	
	2月1日	循環器救急フォーラム	
	3月28日	附属病院敷地内保育所卒園式	
	3月31日	業務改善コンテスト	
	4月1日	ドクターカー運用開始式	
	4月1日	アレルギーセンター開設	
	総合医療センター	1月28日	第3回関西血管外科基本手技ビデオセミナー
		2月2日	災害訓練
2月18日		市民公開講座	
香里病院	3月23日・24日	病院機能評価受審	
附属看護専門学校	3月16日	業務改善コンテスト	
	1月13日	一般入学試験(前期)	
	2月21日	一般入学試験(後期)	
	2月27日	卒業講演会	
	3月2日	卒業式	
卒後臨床研修センター	4月4日	入学式	
	3月17日	附属病院研修管理委員会(修了判定)	
	3月17日	総合医療センター研修管理委員会(修了判定)	
	3月29日	臨床研修修了式・懇親会	
	4月1日~4月10日	初期臨床研修医入職式・オリエンテーション	



第9回地域医療連携フォーラム



第1回関西公立私立医科大学・医学部連合シンポジウム



医学部入学試験合格発表



学内学術集談会



ドクターカー運用開始式

平成28年度医学部卒業式



卒業生と握手を交わす友田学長

3月1日(水)午後1時から枚方学舎加多乃講堂において、「第63回医学部卒業式」が行われました。110名の卒業生が、保護者や来賓、教職員のあたたかい拍手に迎えられて入場。学歌「のぞみ」斉唱の後、卒業生に学位記が授与されました。卒業生たちは学位記を手に、真剣な面持ちで友田幸一学長の告辞を傾聴。卒業生総代の答辞では、社会人として、また医師として社会に出る覚悟と決意、そして教職員などこれまで支えてくれた方々への感謝の言葉が語られました。

学長告辞

学長 友田 幸一

濃かに弥生の雲の流れけり(夏目漱石)

本日ここに第63回関西医科大学卒業式を挙げてまいること、この上ない喜びであります。

第85回生の卒業生の皆様、ご父兄の皆様、本日はご卒業誠におめでとうございます。本学を代表して心からお祝い申し上げます。

また本式典にご臨席頂きましたご来賓の皆様にご心から御礼申し上げます。

本日、男子74名、女子36名、合計110名の卒業生を

送り出すことができますことは、私たち関西医科大学の教職員にとりまして、誠に大きな喜びであります。

さらに皆様の卒業を心待ちにしながら学業や生活の支援を続けてこられたご家族、関係の方々に深く敬意を表します。

この一年は、皆様にとって最終の学年であり、思い出深い一年であり、また苦しい一年だったかと思えます。後半は厳しい卒業試験など試験地獄に耐え、その苦難を乗り越えて見事に卒業されました。これまでの努力と研

鑽の成果を心から讃えたいと思います。

皆さんは、「病で苦しんでいる人を一人でも救いたい」という気持ちでこの医学の道を選んだことと思います。これまで教養を深め、医師として必要な知識、技能を学び、社会人としての常識、態度、人間性を身につけてこられたことと信じます。これからは医師として医学・医療界で活躍することになりますが、人の命を預かる医師に妥協は許され

られません。「何か気になることがあれば、もう一度確認すること。決してそのまま見過ごさないこと。——最後に困るのは君ではなく、患者さんです」。そして私がいつも言ってきたように、「自分が患者さんになった時に、自分のような医師に診てもらいたいか。」を常に忘れないようにしてください。初心の気持ちを今一度思い出して、病める人の気持ち・感情に共感でき、常に寄り添える医師になって欲しいと思います。

現在の日本の医学・医療界には多くの問題が山積しています。例えば少子高齢化に伴う2025年問題があります。2025年の日本は、国民の3人に1人が65歳以上、5人に1人が75歳以上という超高齢社会に突入します。一方、少子化によってこの10年で人口は700万人減るといわれています。さらに予防医学の進歩、ICT技術を用いた遠隔医療、人工知能の普及などによって医師過剰時代になると言われています。そうなる医師同士の競争が始まり、高い技術と豊富な知識を持ち、患者さんの気持ちに寄り添えるコミュニケーション能力の高い医師が求められます。また対象となる患者さんの人柄、経済力、背景、家族などに気を配ることのできるヒューマニズムを持った医師が求められます。

卒後2年間の初期研修でプライマリ・ケアを学ぶことには、大学病院であっても、また市中の病院であってもその内容は同じです。しかし研修を終えた後の進路が大切



で、皆さんの医師としての将来を決定することになります。

一年延期となりましたが、新専門医制度はこれまでの認定基準が大きく変わり、症例数や内容、診療実績、論文発表などが規定化されています。そうなりますと大学病院のような症例数の多い基幹病院で研修せざるを得なくなってきました。皆さんは臨床実習で見てきた通り、本学はさまざまな疾患を持った患者さんを診られるだけでなく、最新の医療を経験できる最適な場所です。また研修中、余裕があれば臨床研究をし、大学院に入ることも1つの道です。本学では「臨床研究支援センター」を開設し、忙しい臨床系の先生のために研究のテーマから具体的な進め方などを丁寧に説明、支援しています。

2年の初期研修修了後は、皆さんが育ったこの本学で高度な専門臨床教育を受け、まず専門医になってください。そしてその後は大学を基点に関連病院に出入りをし、総合的なキャリア形成をしてください。学位を取ることや留学することも極めて意義のあることです。

ここであらためて本学附属3病院を紹介すると、附属病院本院は大阪府下でトップにランキングされた病院で、医療の質はもとより、経営能力においても高い評価を得て、全国的にもリーディングホスピタルの1つです。最新の診療機器を備え、全国でも一流の腕を持つ診療教授が数多くおられ、さらにはがんセンター、小児医療センター、

腎センター、臨床遺伝センター、そしてこの春から全国でも数少ないアレルギーセンターを開設するなど、今後の疾病の動向、変遷に対応した最新の医療が提供できる病院です。

滝井の総合医療センターは、昨年5月にオープンした超近代的な病院で、急性期に対応した診療の他、心臓血管病センター、透析センターほか、人工関節センターを新設し、高名な特命教授、診療教授などのスタッフを揃え診療機能の大幅な強化を行っています。

香里病院は、地域中核病院として活躍中ですが、新たに訪問看護ステーションを設置し、より地域に根差した診療を展開しています。また、来年4月には待望の4年制の看護学部と大学院が新設され、医学・看護の全般にわたって最強の大学に変身します。

大学院制度も昨年から一新し、医学研究倫理に基づくカリキュラムとコースの充実をはかり、「臨床系社会人コース」、すなわち病院で働き一定の収入を得ながら医学研究を行い、専門医と博士の両方の資格を取得できるコースにも力を入れています。その他に、意欲的な若手や中堅医師を世界のトップレベルの施設に、大学が費用を持って臨床留学できる「高度医療人育成制度」など本学特有の魅力的な制度が多々あります。ぜひこれらを活用して、科学に根差した診療、臨床を実行して欲しいと

思います。その他女性医師のための「短時間労働正職員制度」や保育所の設備拡充を行ってきました。

本学は今年で創立89年目に当たります。来年創立90周年を記念して、総合医療センターホスピタルガーデン整備事業、看護学部棟建設、武道館を備えた牧野講堂の建設等を現在進めております。さらに国際交流センターとホスピタルインの機能を備えたタワー棟の建設や最先端医学研究所の設置等を次々と計画しています。

私は学長就任以来、本学の国際化、グローバル化を目指し、世界ランキングに入る大学にしたいと考えてきました。世界で1,000番以内に入ることを目標に、より質の高い医学・医療の提供、研究力の向上、グローバルリーダーの人材育成、国際認証の受審、海外医療支援活動の充実などを推進していきたいと考えています。またそこから生まれた成果を“関西医大ブランド”として医療界、産業界、一般社会に、さらに世界に発信していきたいと考えています。それらを実現するためにも、皆さんの若い力とエネルギーが必要です。母校の更なる発展を願い、皆さんと共に頑張りたいと思います。

最後に、皆さんは本学の建学の精神である「慈仁心鏡」を決して忘れることなく、病める人たちの心の灯となって明るく照らしてあげてください。本日は誠におめでとうございます。



本学看護学部・看護学研究科の設置認可申請を提出

平成30年4月の設置を目指している本学看護学部・看護学研究科について、3月末に看護学部設置準備室から設置認可申請書が文部科学省へ提出されました。本学の創立90周年を記念する一大事業として、学部と同時に大学院も開設する他にあまり類例を見ない今回の取り組みは、全学的な一致団結の元、着々と進んでいます。これからも本学は、高度化・複雑化する看護人材ニーズに応えるために、そして「慈しみ・めぐみ・愛」を心の規範とする医療人を育成するために、新たな取り組みを続けていきます。

平成29年度大学関係役員

4月1日から、平成29年度の大学関係役員体制が次の通りスタートしました。

学 長	友田 幸一	学生部長	福永 幹彦	総合研究施設長	赤根 敦
副学長	伊藤 誠二	学生副部長	中村 加枝	実験動物飼育共同施設長	平野 伸二
〃	松田 公志	〃	中川 淳	アイソトープ実験施設長	谷川 昇
副学長・教務部長	野村 昌作	大学院教務部長	中邨 智之	入試センター長	中川 淳
教務副部長	赤根 敦	大学院教務副部長	高橋 寛二	医学教育センター長	西屋 克己
	北脇 知己	附属図書館長	高橋 寛二	国際交流センター長	鈴鹿 有子
		附属生命医学研究所長	木梨 達雄	学医	塩島 一郎

平成29年度クラスアドバイザー

平成29年度のクラスアドバイザーが次の通り決定しました。

1年	西垣 悦代 教授 (心理学)	・ 楠本 邦子 准教授 (物理学)
2年	中村 加枝 教授 (生理学第二)	・ 上田 康雅 講師 (生理学第二)
3年	西山 利正 教授 (公衆衛生学)	・ 神田 靖士 准教授 (公衆衛生学)
4年	谷川 昇 教授 (放射線科学)	・ 狩谷 秀治 准教授 (放射線科学)
5年	浅井 昭雄 教授 (脳神経外科学)	・ 吉村 晋一 准教授 (脳神経外科学)
6年	湊 直樹 教授 (心臓血管外科学)	・ 岡田 隆之 講師 (心臓血管外科学)

医学部講座の再編について

平成29年4月1日(土)付で、「病理学第一講座」「病理学第二講座」および「病態検査学講座」の3講座が、基礎社会系講座の「実験病理学講座」と臨床系講座の「臨床病理学講座」の2講座に再編されました。

第16回関西医科大学医学会賞

2月17日(金)枚方学舎2階第3講義室において、第133回関西医科大学学内学術集談会(世話講座：眼科学講座)が開催されました。同集談会にて、第16回関西医科大学医学会賞に選ばれた3名をご紹介します。

医学会賞(優秀賞)

耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座 高田 洋平 研究員

■演 題「内耳毒性難聴モデルモットへのHSP70遺伝子導入による蝸牛内毛細胞変性と聴力障害の抑制」

この度、関西医科大学医学会賞優秀賞を受賞させていただき大変光栄に存じます。2012年に前友田幸一教授から幸運にも留学の話を勧めいただき、大学院に進学し、米国ミシガン大学クレスゲ聴覚研究所でYehoash Raphael教授の下へResearchフェローとして約3年間留学させていただきました。実は、クレスゲ聴覚研究所には偶然にも30年前に同耳鼻科医である父が留学しており、私自身は幼すぎて記憶にはないものの、ミシガンに住んでいたこともあって留学決定の後押しとなりました。研究内容としてはGjb2先天性難聴モデルマウスや内耳毒性薬剤を用いた難聴モデルモットを作成し、アデノウイルスベクター遺伝子治療を導入することによって、蝸牛内毛細胞・らせん神経節細胞の変性抑制、難聴抑制に成功することが出来ました。留学前は不安と緊張でいっぱいでしたが、留学生活を通じて、基礎研究の大切さ、物の考え方、英語の大切さなどを日々痛感し、勉強しながらも楽しい留学生活を送ることができました。この場を借りてご指導・ご支援くださった友田学長、Raphael教授、医局員の皆様、留学生活を支えてくれた家族に厚く御礼を申し上げます。



医学会賞(奨励賞)

腎泌尿器外科学講座 安田 鐘樹 助教

■演 題「Mst1欠損による増強された細胞傷害性T細胞の機能と腫瘍発達の抑制について」

この度、関西医科大学医学会賞奨励賞を受賞させて頂き大変光栄に存じます。私は、平成21年に大学院に入学いたしました。附属生命医学研究所分子遺伝学部門木梨達雄教授のもとに、まず、Ste20-like kinaseであるMst1によるリンパ球のインテグリン接着制御について学びました。その後、私自身が腎泌尿器外科医であるので腫瘍免疫に興味を持ち、マウス前立腺癌細胞株に対してMst1がどのように細胞障害性T細胞の機能を制御するのかについて研究を行いました。Mst1が欠損することによって細胞障害性T細胞は機能が増強され、また腫瘍発足を抑制することが明らかとなりました。今後、基礎研究と臨床研究を繋げる機会を得たことは私の財産です。ご支援くださった木梨達雄教授、松田公志教授に深く御礼申し上げます。



医学会賞(奨励賞)

内科学第三講座 鈴木 亮 研究員

■演 題「Smad2/3 linker phosphorylation is a possible marker of cancer stem cells and correlates with carcinogenesis in a mouse model of colitis-associated colorectal cancer (腸炎関連大腸癌モデルマウスにおけるSmad2/3リンカー部リン酸化の癌幹細胞マーカーとしての可能性と発癌との関連性についての検討)」

関西医科大学医学会賞奨励賞を授与いただき、大変光栄に存じます。臨床しか知らず、基礎医学や研究に不安を感じながら始まった大学院は、厳しさもありましたが、面白さや奥深さなど様々なことを経験させていただきました。マウスによる研究に対し、臨床から程遠い研究と困惑・戸惑いを感じながらも、指導医の先生に恵まれ、先輩、同僚に支えられながら幹細胞の維持や再生について学び、実験モデルとした潰瘍性大腸炎関連大腸癌の基礎とメカニズムを考えるうちに、研究に没頭し興奮を感じ、充実した大学院の日々を送り論文を完成することができました。今では臨床に繋がる基礎を学べたことは私にとって大きな収穫です。最後に、この場をお借りして岡崎和一教授をはじめとする内科学第三講座の皆様深く御礼申し上げます。



矢西助教が大阪対がん協会 がん研究助成奨励金を受賞

3月6日(月)朝日新聞大阪本社アサコムホール(大阪市北区)において「公益財団法人大阪対がん協会平成28年度がん研究助成奨励金贈呈式」が開かれ、腎泌尿器外科学講座矢西正明助教が、応募68名から選ばれた受賞者15名の一人として、奨励金を贈呈されました。

■矢西助教コメント

この度は、非常に歴史ある賞を受賞でき身に余る光栄です。一重に松田教授をはじめとする腎泌尿器外科学講座の先生方のご支援のお蔭であり、この場を借りて御礼申し上げます。受賞に至った研究は、尿路上皮癌の化学療法で主に用いられるシスプラチンなどの白金製剤で引き起こされる急性腎障害(AKI)の診断に際して、主流の血清Crを用いた手法ではなく、尿中L-FABPを用いて早期診断の可能性を探るものです。今後も皆様のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

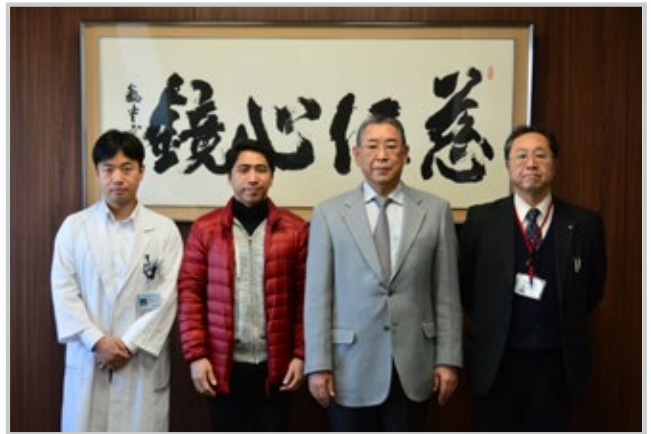


記念撮影に収まる矢西助教(後列左から2人目)

パプアニューギニアから見学者が来学

1月6日(金)午後1時、パプアニューギニアのPacific International Hospitalの医師であるRonald P. Galicio氏が来学しました。友田幸一学長を表敬訪問したのち、枚方学舎3階シミュレーションセンターにおいてカテーテルの手技トレーニングを実施。初めて扱う機器に戸惑う表情を見せながらも、案内・指導役を務めた内科学第二講座妹尾健助教に時折質問を投げかけながら、積極的な姿勢で取り組んでいました。その後は附属病院を見学し、本学の留学生とも面会しました。

Galicio氏は本学の施設について「とりわけシミュレーションセンターが素晴らしい。また、附属病院は同規模の自国の施設と比べても広々としている」とコメントし、「公式な留学生として再訪したい」と感想を述べました。



Galicio氏(中央左)を囲んで撮影

韓国の慶熙大学校から副総長らが来学

1月24日(火)午後4時、韓国の慶熙(キョンヒ)大学校からYeong Duk Cho副総長、韓医学部Namil Kim学部長、同Seong-Gyu Ko副学部長、同佐々木裕伊研究員が来学し、友田幸一学長、伊藤誠二副学長、野村昌作副学長(教務部長)、国際交流センター西山利正センター長と面会しました。

Cho副総長らは、今回の訪日の目的について「韓国と日本の間では研究者間での交流はあるものの、学生が利用できる留学プログラムは多くない。今後二国間の医学教育における交流を活発にしていきたい」と語りました。その後、韓国と日本の医師制度の違いや韓国の伝統医学、大学の規模や学生数などについて情報交換し、交流の可能性を探りました。友田学長は「ぜひ次回は、慶熙大学校を訪問して話をしたい」と述べ、Cho副総長とかたい握手を交わしました。

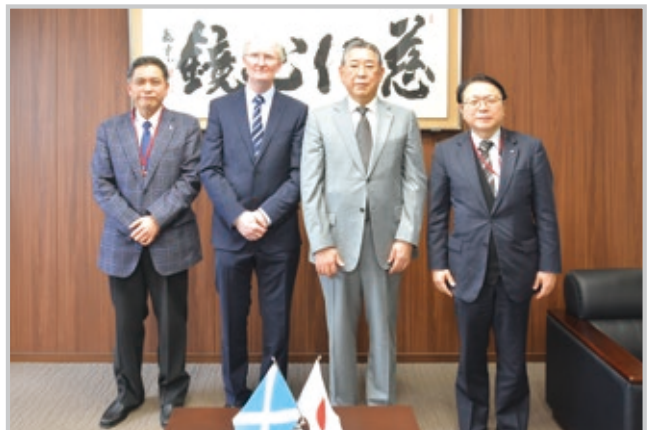


記念撮影に応じるCho副総長(前列左)ほか一行

グラスゴー大学教授来学、講義

2月24日(金)午前11時30分、イギリスのグラスゴー大学からDonald McMillan教授が来学し、友田幸一学長、野村昌作副学長(教務部長)、内科学第三講座岡崎和一教授と面会しました。その後は附属病院の施設や枚方学舎の講義室、附属図書館、附属生命医学研究所などを見学。枚方学舎3階シミュレーションセンターでは、分娩トレーニング用の出産ロボットや、手術手技を練習する研修医の様子を視察しました。

また、同日午後5時30分からは枚方学舎加多乃講堂において「Prognostic tools in patients with advanced cancer」とのテーマで、講演が行われました。講演後は聴講した学生から英語で質問が出るなど、活発な質疑応答が行われました。



McMillan教授(中央左)を囲んで

慈仁会定期総会を開催

4月5日(水) 14時40分から枚方学舎加多乃講堂において「平成29年度慈仁会定期総会」が開催されました。冒頭で山下敏夫理事長と友田幸一学長がそれぞれ挨拶。その後、議案(1)平成28年度事業報告及び収支決算(2)平成29年度事業計画及び収支予算案(3)役員改選がいずれも承認されました。なお、本年度の慈仁会主要役員は以下の方々です。

平成29年度慈仁会主要役員

委員 長	杉浦 哲朗	監 事	西川 睦彦
会計委員	重山 文子	〃	山添 康

平成29年度医学部入学試験結果

平成29年度医学部の推薦、センター試験利用、一般前期(大阪・東京・名古屋・福岡の4会場)、一般後期(枚方学舎)各入学試験の合計志願者数は3,663名であり、平成28年度の3,481名と比較し182名(5.2%)増加しました。平成27年度から導入したインターネット出願は、平成28年度は1,399名(38.7%)で、昨年度の1,160名(33.8%)より利用率が向上しました。

入学者117名における内訳は、推薦入試10名、センター試験利用入試7名、一般前期入試97名、一般後期入試3名です。

平成29年度大学院入学試験結果

前期入学試験を平成28年9月3日(土)、後期入学試験を2月4日(土)に実施しました。大学院入学試験は今回から大幅に制度を変更し、一般入試、社会人入試に加えて、入試のための来日が必要ない外国人入試を導入しました。受験者は、前期入学試験が21名、後期入学試験が11名の計32名で、27名が合格となりました。

平成29年度入学者数は25名となり、25名の中には社会人学生8名、(内、長期履修者5名)、がんプロ特別学生1名、外国人学生2名を含み、本年4月時点での大学院生総数は126名となりました。

第111回医師国家試験結果

3月17日(金)第111回医師国家試験の結果が発表されました。本学の新卒受験者110名のうち94名が合格し、合格率は85.5%でした。また、新卒および既卒を合わせた本学の受験者125名のうち104名が合格し、合格率は83.2%でした。今後は学生の試験合格に向け、サポート体制をさらに強化する予定です。

THE 大学ランキング日本版に本学がランクイン

3月30日(木)、午後2時30分からベルサール新宿グランド(東京都新宿区)において「大学改革カンファレンス2017」が開催され、英国の教育専門誌「タイムズ・ハイアー・エデュケーション(THE)」が実施・集計した日本版大学ランキングが発表されました。その結果、本学は総合ランキングにおいて『141-150』位グループにランクイン。私立医科単科大学としてトップを、“教育リソース”における分野別ランキングでも22位タイを飾りました。



『THE』から授与されたランキング証明書

平成29年度 教務関係日程表

1学年	
4/5(水)	入学式
4/6(木)・7(金)	新入生オリエンテーション
4/10(月)	新入生健康診断
4/11(火)	1学期開講
4/13(木)・14(金)	合宿研修
5/1(月)～5/6(土)	休講 (5月連休)
6/30(金)	創立記念日
7/3(月)～14(金)	試験期間
7/19(水)	1学期終講
7/20(木)～8/26(土)	夏季休業 (期間内に早期体験実習)
8/28(月)	2学期開講
11/3(金)～11/5(日)	大学祭
12/4(月)～12/15(金)	試験期間
12/15(金)	2学期終講
12/18(月)～1/3(水)	冬季休業
1/4(木)	3学期開講
2/19(月)～3/2(金)	試験期間
3/5(月)～3/9(金)	早期医療実習
3/7(水)	卒業式
3/9(金)	3学期終講

2学年	
3/30(木)	新2学年ガイダンス
4/6(木)	1学期開講
5/1(月)～5/6(土)	休講 (5月連休)
5/15(月)	解剖体追悼法要
5/19(金)	学生定期健康診断
6/30(金)	創立記念日
7/18(火)～21(金)	試験期間
7/21(金)	1学期終講
7/24(月)～8/26(土)	夏季休業
8/28(月)	2学期開講
11/3(金)～11/5(日)	大学祭
12/11(月)～20(水)	試験期間
12/20(水)	2学期終講
12/21(木)～1/3(水)	冬季休業
1/4(木)	3学期開講
1/29(月)～2/26(月)	試験期間
2/26(月)	3学期終講
3/7(水)	卒業式

3学年	
3/28(火)	新3学年ガイダンス
4/6(木)	1学期開講
5/1(月)～5/6(土)	休講 (5月連休)
5/15(月)	解剖体追悼法要
5/18(木)	学生定期健康診断
6/30(金)	創立記念日
7/12(水)～7/21(金)	試験期間
7/21(金)	1学期終講
7/24(月)～8/19(土)	夏季休業
8/21(月)	2学期開講
11/3(金)～11/5(日)	大学祭
12/11(月)～12/15(金)	試験期間
12/15(金)	2学期終講
12/18(月)～1/3(水)	冬季休業
1/4(木)	3学期開講
1/22(月)～2/16(金)	配属実習
3/2(金)	3学期終講
3/7(水)	卒業式

4学年	
4/3(月)	新4学年ガイダンス
4/6(木)	1学期開講
5/1(月)～5/6(土)	休講 (5月連休)
5/17(水)	学生定期健康診断
6/30(金)	創立記念日
7/21(金)	1学期終講
7/24(月)～8/19(土)	夏季休業
8/21(月)	2学期開講
11/3(金)～11/5(日)	大学祭
12/13(水)～12/19(火)	試験期間
12/19(火)	2学期終講
12/20(水)～1/3(水)	冬季休業
1/4(木)	3学期開講
1/4(木)～1/6(土)	試験期間
1/10(水)	共用試験CBT
2/17(土)	共用試験OSCE
2/19(月)～2/23(金)	プレクリニカル・クラークシップ
2/28(水)	3学期終講
3/7(水)	卒業式

5学年	
4/6(木)	新5学年Student Doctor認証式・ガイダンス
4/10(月)	1学期開講
4/10(月)～3/2(金)	臨床実習
5/1(月)～5/6(土)	休講 (5月連休)
5/18(木)	学生定期健康診断
6/30(金)	創立記念日 (臨床実習開講)
7/28(金)	1学期終講
7/31(月)～8/19(土)	夏季休業
8/21(月)	2学期開講
8/21(月)	CC中間検討会
9/2(土)	中間試験
12/22(金)	2学期終講
12/25(月)～1/4(木)	冬季休業
1/5(金)	3学期開講
1/5(金)	クリニカル・クラークシップ総合試験
3/2(金)	3学期終講
3/7(水)	卒業式

6学年	
3/28(火)	新6学年ガイダンス
4/3(月)	1学期開講
4/3(月)～6/30(金)	臨床実習
5/1(月)～5/6(土)	休講 (5月連休)
5/17(水)	学生定期健康診断
6/30(金)	創立記念日 (臨床実習開講)
7/15(土)	PostCC-OSCE
7/15(土)	1学期終講
7/18(火)～8/19(土)	夏季休業
8/21(月)	2学期開講
8/21(月)～8/25(金)	卒業試験① (5日間の内で1日(予備含む))
8/28(月)～11/2(木)	まとめの講義
10/23(月)～10/24(火)	卒業試験②
11/14(火)～11/20(月)	卒業試験③
11/20(月)	2学期終講
11/21(火)	冬季休業開始 (以降自習期間)
3/7(水)	卒業式

(注) 休講日及び休業期間においても試験・授業等を行うことがあります。

大学院学位記授与式

3月28日(火)午後3時30分から枚方学舎4階中会議室において、友田幸一学長をはじめ伊藤誠二副学長(研究担当)、中邨智之大学院教務部長や指導教員らが列席し、「平成28年度3月学位記授与式」が挙行されました。新たに誕生した課程博士6名、論文博士4名に、友田学長から博士(医学)の学位記が授与され、その後の学長告辞では学位取得者の努力に対する労いと「学位の取得は、喜びだけでなく社会に対して医学博士としての責任を果たすことであり、また後進の支援も行ってほしい」との言葉が贈られました。



博士(医学)の学位記を手に写真に収まる修了生ほか

平成28年度留学研究賞



受賞者のViengvalyさん(中央右)とLamaningaoさん(中央左)

3月28日(火)午後2時45分から枚方学舎4階中会議室において「平成28年度関西医科大学留学研究賞授与式」(主催：国際交流センター)が行われました。この賞は、本学の留学生、留学研究者が本学滞在中に発刊したすぐれた研究論文に対して与えられるもの。平成28年度は、ラオス人民民主共和国から来学したViengvaly Phommanivongさん(医科学専攻社会環境医療系公衆衛生学・国際保健学)、同じくラオスから来学のLamaningao Phephetさん(同専攻同系公衆衛生学・国際保健学)の2名が受賞し、友田幸一学長から賞状と記念品が授与されました。

病理学第二講座螺良教授最終講義

2月2日(木)午後3時40分から、枚方学舎加多乃講堂において病理学第二講座螺良愛郎教授の最終講義が開講され、山下敏夫理事長や友田幸一学長をはじめとする多くの教職員・学生が受講しました。冒頭山下理事長が「9歳年下ながら同時に教授となった螺良教授は、良きパートナーとして私を支えてくれた」と挨拶。続いて友田学長は「同門の先輩として若かりし頃は大変お世話になった」と謝辞を述べ、これまでの苦労を労いました。その後「私と病理学の42年」と題し、螺良教授が幼少期から病理学との出会い、そして今に至るまでの足跡を講義しました。

最後に病理学第二講座や螺良教授が顧問を務めた空手部・合気道部、館長だった図書館など、縁のある参加者から花束を贈呈され、全員で集合写真に収まり最終講義が終講しました。



出席者と記念写真に収まる螺良教授(前列右から4人目)

整形外科学講座飯田教授最終講義

2月27日(月)午後4時10分から、枚方学舎2階第4講義室において整形外科学講座飯田寛和教授の最終講義が開講され、山下敏夫理事長や友田幸一学長、医局員・学生他教職員が多数受講しました。冒頭、山下理事長と友田学長が挨拶を述べ、長年の貢献を讃えました。続いて飯田教授が登壇。「整形外科医43年を振り返って」と題し、医学や整形外科、人工股関節治療との出会いから、これまでの診療・研究実績まで、実際に診察した患者さんのエピソードを交えながら紹介しました。

最終講義終了後は、学生クラス代表や飯田教授が顧問を務めたラグビー部の部員、医局員から花束を手渡され、記念写真に収まりました。



出席者と記念写真に収まる飯田教授(前列中央テーブル右から3人目)

第1回関西公立私立医科大学・医学部連合シンポジウム開催

2月6日(月)午後1時30分から、大阪大学中之島センター佐治敬三メモリアルホール(大阪市北区)において「第1回関西公立私立医科大学・医学部連合シンポジウム」が開催されました。これは、2016年9月に発足した関西公立私立医科大学・医学部連合とWHO健康開発総合研究センターとの共同研究ワーキンググループの一環で開催されたもの。招待講演としてWHO健康開発総合研究センターアレックス・ロス所長が、基調講演として国立研究開発法人日本医療研究開発機構末松誠理事長が、それぞれ講演しました。続いて参加8大学の学長・医学部長が登壇し、自学の最先端研究を紹介。友田幸一学長も本学が進めるウェアラブル端末を用いたヘルスケアビジネスの創生と、幹細胞を活用した乳房再建術の研究について、概要と現状を報告しました。

その後、出席した企業と参加8大学の教授が個別に意見交換を行い、最先端研究のビジネス応用に向けて活発にやり取りしました。

産学官協創フォーラム開催

3月17日(金)午後2時から枚方学舎加多乃講堂において『平成28年度内閣府地方創生加速化交付金事業(以下「地方創生加速化交付金事業」)「ITを活用した健康生涯活躍のまち及びヘルスケアビジネス創生事業(以下「ヘルスケアビジネス創生事業」)産学官協創フォーラム』が開催されました。これは、本学と枚方市が推進している「地方創生加速化交付金事業『ヘルスケアビジネス創生事業』」の成果報告と今後の地方創生、健康創生事業に対する新たな展開を目指し、開催したものです。

フォーラムは友田幸一学長が開会の辞を述べてスタート。経済産業省ヘルスケア産業課江崎禎英課長の基調講演、ロート製薬株式会社海外事業・技術担当兼チーフヘルスオフィサー(最高健康責任者)ジュネジャ・レカ・ラジュ取締役副社長の講演後、健康科学教室木村穰教授がウェアラブルセンサーを用いた実証実験の事業報告を行いました。

続く第二部では京阪ホールディングス株式会社経営統括室江藤知事業推進担当部長や枚方信用金庫吉野敬昌理事長、富士通株式会社関西ビジネスイノベーションセンター西田隆センター長を招いたパネルディスカッションも行われました。



パネルディスカッションで発言する友田学長(右から2人目)

病 院

附属病院 脳梗塞の最新治療と認知症に関する市民公開講座

1月21日(土)午後2時から附属病院13階講堂において、「脳梗塞の最新治療と認知症」と題した市民公開講座が開催されました。

澤田敏病院長による挨拶の後、「脳梗塞治療の最前線～なったらどうする？ならぬためにどうする？～」をテーマに、神経内科國枝武伸講師(神経内科学講座診療講師)が最新の脳梗塞治療について実例を交えて講演。続いて「認知症の診療について」をテーマに、精神神経科奥川学准教授(精神神経科学講座准教授)が様々な側面から認知症について講演しました。

この日は定員を大きく上回る約250名の市民が来場し、熱心にメモを取ったり質疑応答で多数の質問が出たりと、関心の高さがうかがえました。参加者は「講演で思い当たるふしが多々あったので早速受診したい、大変勉強になった」と感想を述べました。



満席の中熱心に講演を聞く参加者

附属病院 附属病院院内保育所にて卒園式

3月28日(火)午前10時から附属病院院内保育所において卒園式が挙行政され、今年度卒園する15名の園児とその保護者らが参加しました。

保育所の拡張工事が行われてから初めての卒園式となる今回、園児たちは保育士らの呼びかけで元気よく入場。式中は保護者の膝の上で、普段から行っている歌遊びや体操で体を動かし、保育士らの出し物を楽しそうに見ていました。また、歌を交えた出席確認で名前が呼ばれると手を挙げて答えていました。

その後保育所長の附属病院安田照美看護部長から卒園証書が渡され、この日のために練習してきたという園児らは小さな階段を上り、次々と受け取っていました。



卒園証書を渡す安田看護部長と受け取る園児

附属病院

附属病院でドクターカー運用開始式

4月1日(土)午後2時から附属病院高度救命救急センター前において、枚方寝屋川消防組合と附属病院のコラボレーション事業としてのドクターカー運用開始式が行われました。

式では枚方寝屋川消防組合管理者である枚方市伏見隆市長、附属病院澤田敏病院長からそれぞれ挨拶があり、また枚方寝屋川消防組合矢追政宏総務部長からドクターカーの概要が説明されました。その後、列席者が見守る中で山下敏夫理事長、澤田病院長、伏見枚方市長、寝屋川市北川法夫市長、交野市黒田実市長、枚方寝屋川消防組合藤中明広消防長によるテープカットが行われました。

閉式後はドクターカーの車両展示が行われ、列席者の

中には車両の中に入り見学する方などがみられ、これからの運用に想いを巡らせているようでした。



テープカットを行う山下理事長(右から3人目)、澤田病院長(同2人目)ほか

附属病院

附属病院にアレルギーセンター設置

4月1日(土)、附属病院にアレルギーセンターが設置されました。これは、日本人の2名に1名が何らかの症状を持っているといわれるアレルギー疾患に対し、どこでも誰でも良質な治療を受けられるよう、一昨年制定された「アレルギー疾患対策基本法」に基づくものです。呼吸器感染症内科、小児科、耳鼻咽喉科・頭頸部外科、皮膚科、眼科の医師が中心となり、病院や職種の枠を超えて関係する医療者が連携し、高度なアレルギー疾患診療を提供することが可能になりました。

また、同日午後4時から枚方学舎加多乃講堂において開設記念講演会が開催されました。附属病院澤田敏病院長の挨拶の後、教育講演として皮膚科神戸直智准教授、呼吸器感染症内科小林良樹講師が登壇。さらに特別講演として、日本アレルギー学会齋藤博久理事長が登壇

し、アレルギー治療の現状とこれからのについて講演しました。最後は友田幸一学長が挨拶を述べ、記念講演会は幕を下ろしました。



記念写真に収まる友田学長(左から4人目)、日本アレルギー学会齋藤理事長(同5人目)

附属病院

附属病院循環器救急フォーラム開催

2月1日(水)午後6時から附属病院循環器内科主催の「循環器救急フォーラム」が枚方学舎2階第4講義室で開催され、枚方寝屋川消防組合をはじめ近隣の消防本部から約100名の救急隊員が参加しました。

内科学第二講座塩島一朗教授による開会挨拶の後、同講座神島宏准教授を座長に健康科学教室木村穰教授が「循環器救急のさらなる充実をめざして」と題して特別講演に登壇。最後に心臓血管外科学講座湊直樹教授が、閉会の挨拶を述べました。

フォーラム終了後には医師と救急隊員との意見交換会も開催。救急隊員からは、特別講演について「知らなかった内容で認識を新たにしたい」との感想が多数寄

せられ、ともに地域医療に貢献していくことを確認していました。



講演を行う木村教授と聴講する参加者

総合医療センター

解体中の日本館で災害訓練を実施

2月2日(木)午前9時30分から解体中の総合医療センター旧本館において、災害訓練が行われました。この訓練は、本学が提案し、守口保健所、守口市門真市消防組



訓練中の様子

合、解体工事を担う株式会社竹中工務店などの協力を得て実現したもの。地震により建物が倒壊したとの想定で、守口市門真市消防組合隊員と本学の災害派遣医療チーム(DMAT)等が連携し、壁に穴を開けて傷病者を救助・救護する訓練を行いました。実際の建物を使って同種の訓練が行われる例は全国的にみても珍しく、当日は多数の見学者と報道関係者が訪れました。また、今回は建物に取り残された傷病者の数やけがの程度を訓練参加者に知らせずに行う「ブラインド方式」を採用。より実践的な訓練となりました。本学の代表者を務めた救命救急センター中森靖部長(救急医学講座准教授)は、今回の訓練について「消防とDMATの連携を確認するよい機会になった」と総括しました。

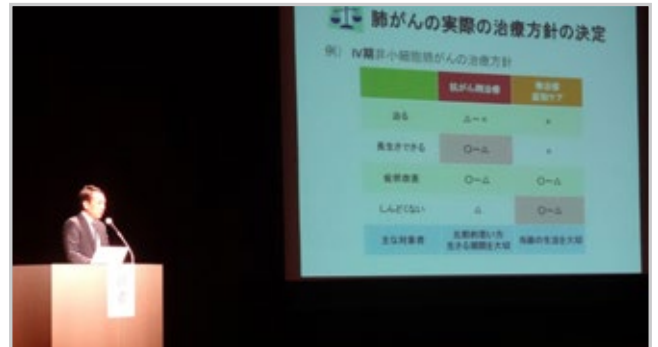
総合医療センター

市民健康講座開催

2月18日(土)午後2時から守口文化センター・エナジーホール(守口市)において、第19回関西医科大学総合医療センター市民健康講座「がんを知ろう!!～がんの予防から治療まで～」が開催されました。

がん治療・緩和ケアセンター石井一慶センター長(内科学第一講座診療教授)が座長を務め、荒堀広美がん化学療法看護認定看護師が「がんって何?～今日からできるがん予防～」、PETセンター宇都宮啓太センター長(放射線科診療部長・放射線科学講座准教授)が「がんの早期発見について～PET CTを中心に～」、呼吸器外科診療部長金田浩由紀准教授(呼吸器外科学講座講師)が「わたしが決めるがん治療～医療情報の活用の仕方を含めて

～」をそれぞれ講演し、参加者約130人は熱心に聴き入りました。



講演中の様子

総合医療センター

第3回関西血管外科基本手技ビデオセミナー

1月28日(土)午後2時30分から枚方学舎3階学生食堂において、「第3回関西血管外科基本手技ビデオセミナー」が開催されました。本セミナーは、関西で唯一「血



人工血管の吻合に挑戦する参加者

管外科」を標榜する大学病院として、近郊の若手外科医に修練の場を提供する目的で開始されたもの。今回は、東京、名古屋、鳥根、愛媛など遠隔地からも学習の機会を求めて、若手外科医や研修医、学生らが参加しました。

総合医療センター血管外科駒井宏好教授(外科学講座診療教授)が映像を用いて基本的な血管吻合の解説を行った後、日本血管外科学会宮田哲郎理事長(山王メディカルセンター血管病センターセンター長)が登壇し、『血管外科と血管外科医の未来に向けて』とのテーマで血管外科手術の歴史や変遷について講演しました。休憩をはさみ、後半は二人一組で人工血管吻合に挑戦。本学教職員らの指導を受け、1人1時間をかけてトレーニングに取り組みました。セミナーの後は、4階カフェテリテリアにおいて懇親会が行われました。

平成29年度関西医科大学附属看護専門学校入学式



宣誓を読み上げる新入生と楠本学校長

4月4日(火)午前10時から枚方学舎加多乃講堂において「平成29年度附属看護専門学校入学式」が執り行われました。楠本健司学校長から79名の新入生へ向けて「緑豊かな牧野キャンパスで、常に謙虚な姿勢で存分に学んでほしい」と式辞が述べられた他、山下敏夫理事長、友田幸一学長、附属病院安田照美看護部長からそれぞれ、新入生への祝辞が贈られました。

学校長式辞

学校長 楠本 健司

38期生79名の皆さん、本日は入学おめでとうございます。関西医科大学附属看護専門学校の教職員を代表してお祝いと歓迎の言葉を述べさせていただきます。また、皆さんの勉学を今日まで支援し、励ましてこられたご両親・保護者の方をはじめ、ご家族、先生方にも心からお祝いを申し上げます。併せまして、ご来賓の皆様方には、本日はご多忙のところ、新入生のためにご臨席を賜り、厚くお礼申し上げます。

関西医科大学は昭和3年(1928年)に創立された輝かしい歴史と伝統をもつ私立医科大学であります。その附属看護専門学校である本校も、昭和7年(1932年)に附属看護婦養成所として開設され、今年、86年目を迎える歴史ある看護学校です。定員が80名になった過去15年間の看護師国家試験の累積合格率は99%と極めて高く、全国的にも常にトップクラスの成績であります。この3月までに4,467名という実に多くの正看護師を世に送り出し、活躍をしています。新入生の皆さんは、今日からこの伝統ある関西医科大学の看護学生として誇りと責任を持って、是非とも充実した学生生活を過ごしていただきたいと願っています。

ここで皆さんがめざしている看護師の「看護」という文字を紐解いてみましょう。「看」はその字の形のとおり「目の上に手をかざして見る」ことを表しています。また「護」は言葉をかけて注意深く守ることを意味します。まさに、看護師という仕事は広い視野を持ち、傷や病を負った人々を見つめつつ、言葉をかけて支えていくという使命を担っていることを示しています。

皆さんが敬愛するナイチンゲールはクリミア戦争で傷

ついた人々の中に身を投じ、その歴史の狭間で戦場の女神として働きました。生物統計学者でもあった彼女は勤勉に、そして環境に対しても謙虚に、戦争のない世界の到来を願って病める人、傷ついた人のためにその生涯を捧げました。幸い現在わが国では戦争という状況は身近にはないものの、病院の中や一般社会の中には病気や外傷と戦っている患者さんたちと病院にはこれを援助する多くの医療人が居ます。今日からみなさん方一人ひとりが看護の立場で、患者さんに寄り添い支える医療人の一人になるという大きな自負を持って下さい。

さて、本校への入学に際して、今後学校生活をし勉学を進める心得として、私から五つの「K」(“five K”)を皆さんにお贈りしたいと思います。一つ目は「健康」の“K”、二つ目は「勤勉」の“K”、三つ目は「謙虚」の“K”、四つ目は「国家試験」の“K”、そして五つ目が「希望」の“K”です。これからの三年間この<五つの“K”>を忘れることの無いように過ごして下さい。

皆さんは、これから牧野の地で勉学を始めます。牧野は関西医大の開学の地としてゆかりの地です。この緑豊かな校舎に、春には桜、続く新緑、秋には金木犀に囲まれる環境の中、歴史と伝統を感じ本当に心を落ち着けることができると思います。このような素晴らしい環境にある学舎で、これからの三年間、健康に気をつけながら日々勉学に励んで下さい。

皆さんの将来を託された立場にある私たち教職員は全力でみなさん方を支えるべく心一つにしておりますことをお伝えして、私の式辞としたいと思います。

本日は本当におめでとうござります。

平成28年度附属看護専門学校卒業式

3月2日(木)午前10時から枚方学舎加多乃講堂において、「平成28年度附属看護専門学校卒業式」が執り行われました。山下敏夫理事長や友田幸一学長、附属病院安田照美看護部長らが臨席。68名の卒業生が、岡崎和一学校長から医療専門課程専門士称号を授けられました。学校長式辞、山下理事長祝辞、安田看護部長来賓祝辞、在校生の送辞では卒業生へのメッセージが贈られ、卒業生答辞では、臨地実習での思い出などに触れつつ、卒業まで支えてくれた方々への感謝の言葉が述べられました。



卒業証書を手渡す岡崎学校長

学校長式辞

学校長 岡崎 和一

本日ここに無事卒業の日を迎えられた平成28年度卒業生68名(女子65名、男子3名)の皆さんおめでとうございます。関西医科大学附属看護専門学校の教職員一同心からお祝い申し上げます。そしてこれまで支えてこられたご家族・保護者の皆様にも心よりお慶び申し上げます。また卒業生を、学業の側面から導いてくださった実習施設の関係者の皆様、並びにご多用の中ご臨席賜りましたご来賓の皆様にも厚くお礼申し上げます。

関西医科大学は昭和3年(1928年)に創立された輝かしい歴史と伝統をもつ私立医科大学であります。その附属看護専門学校である本校も、昭和7年(1932年)に附属看護婦養成所として開設され、今年、85周年を迎え、過去4,397名もの正看護師を世に送り出してきた大変歴史ある看護専門学校です。

さて、看護師としてのスタートを前に学校長として一言お話をさせていただきます。

卒業生の皆さんは本校に入学以来、良き看護師となるべく、日々勉学に励み、看護に必要な知識・技術の習得ならびにコミュニケーション能力の向上、更には患者さんに対するいたわりのこころを育ててこられたことと思います。本日の白衣姿は、これから歩む看護の職業人としての覚悟と誇りの象徴であることをあらためて自覚してください。学生時代には、ある意味で勉学など自分に対する責任を全うすればよかったのですが、これからは、医療人として深刻な病気や悩みを持つ患者さんや、そのご家族に対する責任をも伴う事を自覚してください。

しかしながら、実際に看護師生活が始まると、

学生時代と異なり、そこには多くの困難が待ちかまえているかと思えます。

現代医学をもってしても、どうにもならない患者さんを看護する際のストレスやジレンマ、あるいは医学や看護学だけでは克服できない社会的要因へのむなしさなど、時に厳しい現実も待っているかと思えます。皆さんが目指した看護という仕事は、人と人とのかかわりの中で行われますので、他人を理解し、時には共感し協調する姿勢は極めて大切で、その繰り返し、人間関係スキルの向上とともに、人として成長させてくれます。その過程で人に奉仕して感謝されることこそ大きな喜びとなるだけではなく、看護師としての仕事を全うする糧(かて)ともなります。是非、初心を忘れず、力強い、かつ心優しい看護師に成長してもらいたいと願っています。

今日皆さんはそれぞれの描く理想の看護師像を胸に羽ばたくわけですが、同時に社会人としても旅立つわけです。はなむけに「よき医療人の前によき社会人たれ」という言葉を送りたいと思います。医療・看護に対する知識・技能とともにコミュニケーション能力を育むことは良き看護師になるために勿論大切ですが、「きちんと挨拶する」、「時間を守る」などけじめや節度をわきまえた大人としての振る舞いに気をつけて、頑張ってください。

最後になりますが、今日までご指導くださった諸先生方、並びに関係機関、関係施設の方々に厚く御礼を申しあげ、4月からはじまる、皆さんの看護師としての輝く未来と今後の成長に期待して、私の式辞と致します。

平成29年度附属看護専門学校入学試験結果

附属看護専門学校の平成29年度一般入学試験が、牧野キャンパスにおいて実施されました。前期試験は1月13日(金)に行われ、志願者110名(昨年109名)が受験して48名(内、男子3名含む)が合格。後期試験は2月21日(火)に行われ、志願者47名(昨年54名)が受験して14名が合格しました。

第106回看護師国家試験結果

3月27日(月)第106回看護師国家試験の合格発表が行われました。附属看護専門学校からは71名が受験して70名合格と、合格率98.6%を記録。なお、全国の合格率は88.5%、大阪府は87.7%でした。

卒後臨床研修センター



平成28年度臨床研修修了式

3月29日(水)午後4時から附属病院13階合同カンファレンスルームにおいて「平成28年度臨床研修修了式」が執り行われました。本年は附属病院所属39名、総合医療センター所属8名に対して、参列した教授が見守る中、卒後臨床研修センター金子一成センター長から修了証が授与されました。授与に先立ち修了生は、初期臨床研修開始時につづいた「使命宣誓書」を読み上げ、自らが定めた目標の達成度について自己評価を述べました。また、修了証授与に続いて金子センター長及び卒後臨床研修センター岡田英孝副センター長からは祝辞が、附属病院澤

田敏病院長、総合医療センター岩坂壽二病院長からは告辞が述べられました。



澤田病院長(一列目中央左)、岩坂病院長(同中央右)他と修了生一同

初期臨床研修医入職式・オリエンテーション実施

4月1日(土)午前10時から附属病院13階合同カンファレンスルームにおいて「平成29年度採用臨床研修医入職式」が挙行されました。本年度採用の附属病院所属44名、総合医療センター所属8名の初期臨床研修医に辞令が交付され、白衣が授与された後、卒後臨床研修センター金子一成センター長、岡田英孝副センター長、附属病院澤田敏病院長、総合医療センター岩坂壽二病院長、香里病院高山康夫病院長から祝辞が送られました。

その後4月10日(月)までの日程でオリエンテーションを実施、また4月8日(土)・9日(日)にはホテルコスモス

クエア国際交流センターにおいて1泊2日のワークショップを行い、各課題に取り組みました。



ワークショップの様子



教職員メディア情報

新聞・雑誌などの取材を受け記事が掲載された、あるいはテレビ・ラジオなどに出演した教職員ほかを紹介します。(主に平成29年1月1日～3月31日 ※判明のみ)

救急医学講座 早川 航一 講師	読売新聞 夕刊 (1月4日)	連載企画「医なび」において“慢性硬膜下血腫”が取り上げられ、症状や原因、治療法について解説された中で、早川講師の「本人が自覚して受診することはまれであり、周りの家族が早めに気づくことが重要」などのコメントが写真付きで掲載されました。
健康科学教室 木村 穰 教授	日本経済新聞 朝刊 (1月22日)	医学的な知見を患者さん個人の運動プログラム作成に活用する「メディカルフィットネス」が取り上げられた中で、木村教授のコメントが掲載されました。また、本学が同教授を中心に、内閣府の地方創生加速化交付金事業の一環として枚方市と取り組んでいる、ウェアラブル端末を使用した健康創生事業についても紹介されました。
小児科学講座 石崎 優子 准教授	毎日新聞 (1月26日)	発達障害やそれに類する症状を抱えた子どもへの理解を深める研修会の開催予告が掲載され、石崎准教授が発達障害の種類やサポートについて講演することが紹介されました。
健康科学教室 木村 穰 教授	金融総合専門誌「ニッキン」 1/27号 (1月27日)	本学が木村教授を中心に、内閣府の地方創生加速化交付金事業の一環として取り組むウェアラブル端末を使用した健康創生事業について、枚方信用金庫から地方創生包括協定に基づく協力を受け、実証実験を行っていることが紹介されました。
医化学講座 伊藤 誠二 教授	AERA Premium 医者・医学部がわかる (1月30日発売)	「研究に強い大学はどこか 医学研究地図」のコーナーで、疼痛学分野で大きな研究成果をあげている大学として本学が紹介され、研究テーマや本学の特徴に関する伊藤教授のコメントが掲載されました。
総合医療センター	NHK 関西テレビ 読売テレビ (2月2日)	2月2日に解体中の総合医療センター旧本館で行われた災害訓練の様子が放映され、救助隊が壁を壊して傷病者を救出する様子や総合医療センター救命救急センター中森靖部長のコメントなどが紹介されました。
総合医療センター	読売新聞 夕刊 日本経済新聞 夕刊 (2月2日)	2月2日、解体工事中の総合医療センター旧本館で災害訓練が行われ、守口市門真市消防組合隊員と本学の災害派遣医療チーム(DMAT)が倒壊した建物での救助・救護活動の訓練に従事したことが紹介されました。
総合医療センター	毎日新聞 朝刊 (2月3日)	2月2日に総合医療センター旧本館で行われた災害訓練について紹介されました。また、旧本館跡地を公園として整備する予定であることが掲載されました。
総合医療センター	大阪建設工業新聞 (2月7日)	2月2日に解体中の総合医療センター旧本館で行われた災害訓練の様子が掲載されました。要救助者の人数などが参加する消防隊員やDMATに事前に知らされない「ブライント訓練」として行われ、実際の建物を使用し壁に穴を開ける等の実践的な救出活動が展開されたことが紹介されました。
形成外科学講座 森本 尚樹 准教授	読売テレビ 「かんさい情報ネット ten」 (2月16日)	先天性巨大色素性母斑の、新たな治療法として保険適用が認められた自家培養表皮移植手術が紹介され、初の保険適用例となった患者さんとその執刀医である森本准教授が登場。診察の様子や手術風景とあわせて、森本准教授のコメントが放送されました。
腎泌尿器外科学講座 矢西 正明 助教	朝日新聞 朝刊 (2月21日)	公益財団法人大阪府対がん協会の平成28年度がん研究助成奨励金【臨床の部】を矢西助教が受賞したことが紹介されました。この奨励金は、府内の大学や医療機関などで研究に取り組む若手の研究者や医療従事者に贈られるものです。
形成外科学講座 楠本 健司 教授 覚道 奈津子 講師	大学ジャーナルオンライン (2月24日更新)	楠本教授、覚道講師らの研究チームが、患者さんの脂肪幹細胞を用いる新たな乳房再建術の臨床研究を開始したことが取り上げられ、皮膚を大きく切開せずに乳房を再建できること、傷跡が目立ちにくいことなど、この術式のメリットが紹介されました。
耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座 岩井 大 教授	毎日新聞 朝刊 (2月27日)	2月26日に開催された「第21回耳の日セミナー 耳の健康を考える」が取り上げられ、耳鳴り治療に関する岩井教授の当日の発言内容が紹介されました。
外科学講座 海堀 昌樹 准教授	手術数でわかるいい病院 (2月27日発売)	特集として“高齢者のがん手術”が取り上げられ、昨年の「週刊朝日 1/6-13合併号」に掲載された海堀准教授の、今後急増する高齢者のがんに対する手術の安全性、および手術後の高齢者特有の問題点などについて述べたコメントが再録されました。また、同准教授の高齢者腫瘍腹腔鏡手術の写真も、あわせて掲載されました。
脳神経外科学講座 岩瀬 正顕 准教授	読売新聞 夕刊 (3月1日)	連載企画「医なび」において“脳動脈瘤”が取り上げられ、発症の仕組みや症状、手術について解説された中で、岩瀬准教授の「脳ドックで早期発見に努め、見つかった場合は医師とよく相談してほしい」などのコメントが掲載されました。
耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座 岩井 大 教授	毎日新聞 朝刊 (3月20日)	2月26日に開催された「第21回耳の日セミナー 耳の健康を考える」が取り上げられ、岩井教授の、めまいや耳鳴りなどの原因・治療に関する当日の発言内容が紹介されました。

※このコーナーは主要な放送局、新聞、雑誌の掲載情報が対象ですが、研究成果に関する記事は、その限りではありません。

編集後記

先日、夜の時間帯に枚方市駅側からの病院・学舎を見る機会がありました。幼い頃から夜景が好きな私ですが、濃紺の背景に浮かび上がる建物が、ひときわ美しく見えました。同じものでも見方を変えると違うものが見えてくることある、ふとそう思った瞬間でした。(さ)

関西医科大学広報 Vol.37

発行 学校法人 関西医科大学

編集 広報戦略室

〒573-1010 大阪府枚方市新町2-5-1 TEL 072-804-0101(代表)
FAX 072-804-2547

http://www.kmu.ac.jp/

E-mail: kmuinfo@hirakata.kmu.ac.jp

平成29年4月28日(金)発行